

# インドネシア貿易研修センター事業 巡回指導調査団報告書

平成3年(1991)10月

国際協力事業団



108/29.8/MIF

# インドネシア貿易研修センター事業 巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1096956 (6)

27564

平成3年(1991)10月

国際協力事業団



国際協力事業団

23564

## 序 文

インドネシア貿易研修センター（Indonesia Export Training Center, IETC）はインドネシアの非石油天然ガス製品の輸出促進に寄与する人材育成を目的として設立され、この事業に対するわが国の技術協力が1988年9月2日のR/D署名により正式に発足した。

現在、派遣中の長期専門家により各分野での技術協力活動が行われている。1990年2月に貿易研修コースが開設された後、貿易研修、商業日本語、展示、検査品質管理（木製家具・ラタン製品、繊維・衣料品、ゴム・ゴム製品、冷凍・缶詰食品）の各分野で研修コース及びセミナーが活発に実施されている。

本報告書は、現在までの協力実績の確認と今後の協力計画の策定、ならびにその他プロジェクトの問題点についてインドネシア側と協議するため派遣した巡回指導調査団の調査、協議結果をとりまとめたものである。

ここに、本調査に関し御協力いただいた関係各位に深く感謝の意を表するとともに、今後とも引き続き御指導いただくようお願い申し上げます次第である。

平成3年10月

国際協力事業団  
鉦工業開発協力部

部長 内 仲 康 夫





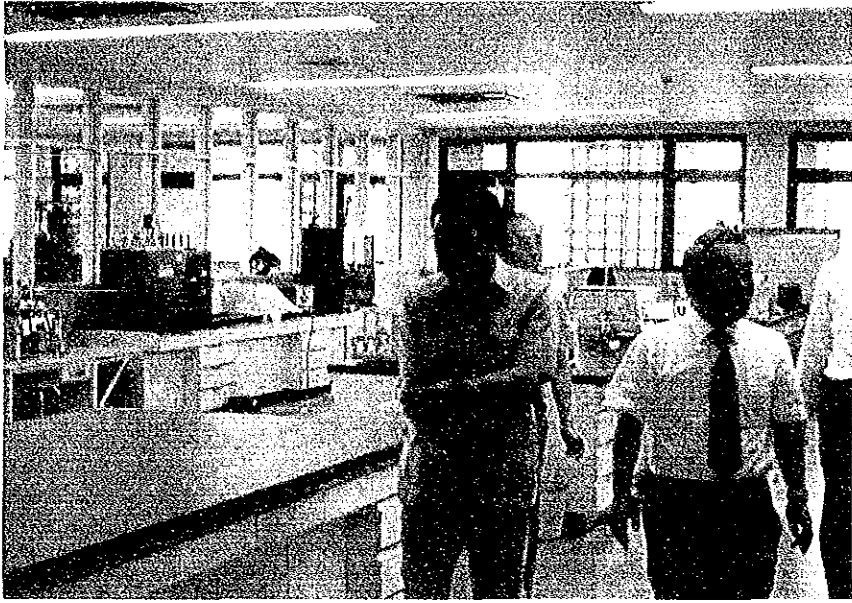
ジョイント・コミッティー風景（インドネシア側）



ジョイント・コミッティー風景（日本側）







(輸出検査ラボ)



(ミニッツ署名式)



# 目 次

1. 巡回指導調査団の派遣	1
1-1. プロジェクトの経緯	1
1-2. 調査団派遣の目的	1
1-3. 調査団の構成	1
1-4. 主要調査日程	2
1-5. 調査項目と対処方針	3
1-6. 主要面談者	6
2. 調査・協議結果概要	8
2-1. インドネシア側との合意事項	8
2-2. インドネシア側との要請事項	8
2-3. 調査団からの要請事項	9
2-4. インドネシア側からの説明事項	10
2-5. 調査団からの説明事項	10
2-6. M/Mの作成	10
3. インドネシア側実施体制	11
3-1. 組 織	11
3-2. 予算措置	13
3-3. カウンターパート配置	15
4. 暫定実施計画	
4-1. 専門家派遣	17
4-2. 研修員受入れ	19
4-3. 機材供与	19
5. 技術移転の進捗状況	21
5-1. 貿易研修分野	21

5-2. 商業日本語分野 .....	29
5-3. 展示研修分野 .....	33
5-4. 輸出検査分野 .....	37
(1) 繊維・衣料品 .....	37
(2) 木工・ラタン製品 .....	44
(3) ゴム・ゴム製品 .....	49
(4) 冷凍・缶詰食品 .....	56
6. トレーニングコース開催 .....	62
7. 今後の留意点 .....	63
ミニッツ .....	65

## 1. 巡回指導調査団の派遣

### 1-1. プロジェクトの経緯

本プロジェクトは、インドネシアにおける非石油・天然ガス製品の輸出促進に寄与する人材養成を目的として、1988年9月2日のR/D締結以来、ジャカルタの商業省インドネシア貿易研修センター（IETC）において、協力期間を5年間に設定して、技術協力が実施されている。本研修センターの建屋・施設・機材は無償資金協力事業（20億2,400万円）によって建設され、1989年5月23日にインドネシア側へ引き渡されており、また本センターの組織は1990年1月24日の大統領令により商業省の外局として承認され、1990年2月1日に開所式を挙行し、2月5日から研修コースを開催するなど、本格的に業務を開始している。

### 1-2. 調査団派遣の目的

- ① 現在までの協力実績の総括
- ② 各技術移転分野の進捗状況の把握と今後の技術協力計画の見直し
- ③ その他問題点の把握と協議

### 1-3. 調査団の構成

分担事項	氏名	所属
総括 (団長)	富田 堅二	JICA専門技術嘱託
技術協力計画 (全体計画)	吉田 泰彦	MITI通商政策局経済協力部技術協力課総括班長
技術協力計画 (輸出検査)	鷺坂 和美	MITI通商産業検査所総務部総務課国際室国際協力係長
技術協力計画 (輸出検査)	池戸 重信	農林水産省東京農林水産消費技術センター技術指導部長
業務調整	川畑 輝彦	JICA鉱工業開発協力部鉱工業開発技術課

1-4. 主要調査日程

月 日	曜	AM / PM	主 要 調 査 事 項	宿 泊 地
10 21	月	AM PM #	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京発 (JL721) クアラルンプール経由</li> <li>ジャカルタ着</li> <li>山本リーダー以下専門家全員並びにJICA種田職員と打合せ(対処方針など)</li> </ul>	ジャカルタ
10 22	火	AM # PM # #	<ul style="list-style-type: none"> <li>山本リーダー、平山調整員と打合せ(現状と要望事項について聴取)</li> <li>JICA(高橋所長と面談)(対処方針など)</li> <li>BAPPENAS(Anwar Wardhani 商工局長と面談)</li> <li>日本大使館(大村二等書記官と面談)</li> <li>吉田団員ジャカルタ着</li> <li>団員打合せ(今後の対処方針など)</li> </ul>	ジャカルタ
10 23	水	AM PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>IETC(所内視察)</li> <li>SEKKAB(Wahid Salim 技術協力局課長と面談)</li> <li>IETC(専門家グループと技術移転進捗状況と今後の技術協力計画について打合せ)</li> </ul>	ジャカルタ
10 24	木	AM PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>IETC(専門家とログフレームについて打合せ)(Soewardi Soepade IETC 所長代理以下C/Pと実績及び計画について協議)(リーダー及び調整員とIETCとの協議記録の作成並びにログフレームについて協議)</li> </ul>	ジャカルタ
10 25	金	AM PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>IETC(第3回合同委員会に出席)</li> <li>IETC(山本リーダー、平山調整員とM/M(案)作成)(Djufri IETC 総務部長とM/M(案)協議)</li> </ul>	ジャカルタ
10 26	土	AM PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>M/M文書作成</li> <li>吉田団員ジャカルタ発</li> </ul>	ジャカルタ
10 27	日	AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉田団員東京着</li> <li>山本リーダー及び平山調整員とM/M文書の検討</li> </ul>	ジャカルタ
10 28	月	AM PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>IETC(Djufri IETC 総務部長とM/Mの「イ」側署名者について協議)</li> <li>商業省(Bakir Hasan 次官と面談、M/Mへ署名交換)</li> <li>JICA(高橋所長へ経過報告)</li> <li>日本大使館(本庄・大村両書記官へ経過報告)</li> </ul>	ジャカルタ
10 29	火	PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャカルタ発 (JL722) クアラルンプール経由</li> </ul>	機 中 泊
10 30	水	AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京着</li> </ul>	

1-5. 調査項目と対処方針

調査項目	経緯と現状	対処方針
1. 組織	<p>1990年11月14日付、商業大臣により本センター（IETC）の機構改革が決定され同年12月より新組織の下にプロジェクト活動が実施されている。本機構改革は、「民間業者を対象にした教育・訓練・研修等の政府関係機関は、予算の全額補助の政府機関と異なり、将来の自立に備える必要がある。したがって、商業省傘下のIETCに限らず、他の省庁のそれも全て同一の組織に統一を図る。」とのイ側政府の方針によるものである。この改組により、R/Dによる6部機構（商業日本語研修部を含む）から2部・1グループ体制に変わった。新組織は、1991年3月15日に開催されたJoint Committeeにより、R/Dにより合意された組織に代わるものとして、日・イ双方のより承認された。</p> <p>しかし、新組織各部署の業務が重複したり偏ったりするなど、運営体制の非効率性が指摘されており、C/P養成やトレーニングコース開催に支障をきたしている面がある。</p>	<p>新組織への移行自体は承認されたが、イ側の基本的な方針、目的、および将来の展望について確認する。</p> <p>また、新組織がプロジェクト実施に与える障害については、イ側へ改善を要求する。</p>
2. 予算措置	<p>既述のように、イ側はプロジェクト終了後のIETCの自立に向けて積極的な施策を講じており、財政的には独立採算制を目指している。そのため、イ側は1991年度より従来の国庫補助金（開発予算）に加えて、トレーニングコース参加者より受講料を徴収することにより研修開催費に充てる制度を導入した。更に、イ側は1992年度より国庫補助金のうち開発予算を削減し、ルーティン予算にその分を振り替え、将来的には、ルーティン予算と研修開催費によりIETCを運営すべく予算計画を立てている。</p>	<p>現在の予算計画につき、イ側に再確認し、今後の見通しについて説明を求める。</p> <p>また、予算措置が講じられていない商業日本語についてイ側の運営計画を確認する。</p> <p>更に、必要とあらば、予算の増額を要求する。</p>

調査項目	経緯と現状	対処方針
3. カウンターパート配置状況	<p>定数32名に対して最近採用された者を合わせて24名が配置されている。これまで、C/P不足が大きな問題点であったが、1側は最近になりC/Pの採用に対して積極的な姿勢をみせており、若く優秀な人材を登用すべく採用試験を頻繁に実施しているとのことである。</p>	<p>最新の情報によると、近々新たに6名が採用され、配置数は30名となる予定。これが事実とすると、C/Pの問題はほとんど解決されるが、今後はC/Pの質が問題となる。これについては、専門家より事情を聴取し、問題がある場合は、1側に対し適切なC/P配置を要求する。</p>
4. 専門家派遣計画	<p>(1) 長期専門家 9名 (現在派遣中 8名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①リーダー 88.12.20～91.12.19</li> <li>②調整員 88.12.20～91.12.19</li> <li>③貿易研修 89.03.29～92.03.28</li> <li>④貿易研修 91.10. ～93.09.01</li> <li>⑤商業日本語 91.04.07～93.04.06</li> <li>⑥輸出検査(木工) 91.07.24～93.07.23</li> <li>⑦輸出検査(ゴム) 89.03.29～92.03.28</li> <li>⑧輸出検査(繊維) 91.08.02～93.08.01</li> <li>⑨輸出検査(食品) 90.04.26～92.04.25</li> </ul> <p>(2) 短期専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年度 3名</li> <li>・平成2年度 5名</li> <li>・平成3年度 6名(予定)</li> <li>①貿易研修(食品)</li> <li>②展示(上級コース)</li> <li>③輸出検査(木工)</li> <li>④輸出検査(繊維)</li> <li>⑤輸出検査(ゴム)</li> <li>⑥輸出検査(食品)</li> </ul>	<p>TSIに沿って、今後の派遣計画を検討するが、左表中、①、②、③、⑦、⑨については後任者を派遣する。</p> <p>TSIに沿って、過去派遣した専門家の実績を確認し、今後の派遣計画を協議する。</p>
5. 研修員受入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和63年度 3名</li> <li>・平成元年度 6名</li> <li>・平成2年度 4名</li> <li>・平成3年度 8名(予定)</li> </ul>	<p>TSIに沿って、過去受入れたC/Pの現状を確認し、今後の受入れ計画を協議する。</p>



調査項目	経緯と現状	対処方針
	①運営管理 ②A/V機器 ③展示 ④貿易研修 ⑤輸出検査(木工) ⑥輸出検査(繊維) ⑦輸出検査(食品) ⑧包装技術(集団コース)	
6. 機材供与	<p>供与機材については、無償資金協力にて供与した機材を補完する意味で、書籍・薬品・試験機器等を供与している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和63年度 総額約 5,400千円</li> <li>・平成2年度 総額約 26,000千円 (平成元年度申請分を含む)</li> <li>・平成3年度 総額約 14,000千円 (現在購送手続き中)</li> </ul>	<p>供与済み機材の利用・保管状況を確認するとともに、今後の供与計画を協議する。</p>
7. 技術移転の進捗状況	<p>暫定実施計画(TSI)、技術協力計画(TCP)にしたがって、各分野ごとに長期専門家が技術移転計画を作成しC/Pに対する技術移転を実施している。</p> <p>IBTCの機構改革、トレーニングコース開催回数の増大、分野によりばらつきがあるがC/Pの不足等により、技術移転に支障をきたしている面がある。</p>	<p>各分野ごとにC/Pに対する技術移転がどの程度進んでいるかを確認するとともに、技術移転に対する障害については、イ側と協議のうえ善処方を要請する。</p>
8. トレーニングコースの開催	<p>イ側は、トレーニングコースを頻繁に開催することにより、IBTCをアピールするとともに、コース参加者より受講料を徴収し将来の自立化に備えている。</p> <p>コースを積極的に開催することにより、全体の受講者数は当初予定を上回っているが、C/Pがコース開催に係る業務に忙殺され、専門家よりの技術移転を受ける時間や自己学習の時間が十分にとれず、C/Pの人材育成上問題点となっている。</p>	<p>日本側専門家よりコース開催回数を削減するようイ側へ再三申し入れているが、イ側の計画に変更はみられない。本技術協力はイ側の人材養成を第一とする旨イ側へ伝え、問題点については善処方を要請する。</p>

1 - 6 主要面談者

- (1) National Development Planning Agency (BAPPENAS)  
Dr. Anwar Wardhani                      Head, Bureau of Trade and Industry
  
- (2) Cabinet Secretariat (SEKKAB)  
Mr. Wahid Salim                      Head Intergovernmental Division,  
Bureau of Technical Cooperation
  
- (3) Ministry of Trade  
Mr. Bakir Hasan                      Secretary General  
  
Mr. Mohammad Effendi              Head, Bureau of Public Relations and  
Foreign Technical Cooperation  
  
Mr. Akinaga Sinaga                  National Agency for Export Development  
  
Mr. Nunuk Handayani                Center for Testing and Quality Control
  
- (4) Indonesia Export Training Center (IETC)  
Mr. Soewardi Soepadi              Acting Director of IETC  
  
Mr. M. Djufri Idris                  Head, Administrative Division  
  
Mr. Nurdin Noor                      Head, Operational Division  
  
Ms. Handaya Retno                  Counterpart for Trade Training  
  
Ms. Utari Kurnianingsih            Counterpart for Trade Training  
  
Ms. Nendy Naswir                    Coordinator for Exhibition Training  
  
Mr. Januar                            Coordinator for Rubber and Rubber  
Products Training  
  
Mr. Hardjono                         Counterpart for Wooden Furniture and  
Rattan Products Training

Ms. Nuz Nuzulia Ishak                      Coordinator for Textile and Garment  
Training

Ms. Husnainie Hasan Hanafi              Coordinator for Frozen and Canned  
Foods Training

Ms. Julia G. Silalahi                      Coordinator for Business Japanese  
Language Training

(5) 在インドネシア日本国大使館

一等書記官                      本 庄 孝 志

二等書記官                      大 村 哲 臣

(6) J I C A インドネシア事務所

所                      長                      高 橋                      昭

副 参 事                      種 田                      昇

(7) J I C A 派遣長期専門家

( I E T C プロジェクト )

チーフアドバイザー                      山 本 隆 史

コーディネーター                      平 山 隆 馬

貿 易 研 修                      栗 原 徳 弘

商業日本語研修                      大 矢 大 輔

検査品質管理研修

木工・ラタン製品                      竹 内 阪 蔵

繊維・衣料品                      橋 村 恒 男

ゴム・ゴム製品                      山 本 慧 介

冷凍・缶詰食品                      菊 地                      嶺

## 2. 調査、協議結果概要

### 2-1. インドネシア側との合意事項

#### (1) プロジェクトの運営組織

I E T C の組織が 1990 年 11 月 14 日付で商業省令より改正されたことに伴ない、R/D で合意した本件プロジェクトの運営組織も ANNEX I に示すとおりに修正することで双方は合意した。

#### (2) 技術協力計画

本件プロジェクトの進捗状況と今後の技術移転計画とを勘案し、1988 年 9 月 2 日に合意した「技術協力計画」を ANNEX-VI に示す「暫定技術協力計画」へ修正することで、双方は合意した。この「暫定技術協力計画」は技術協力期間として残された今後 2 年間における技術移転事項を可能な限り明確化したものである。また、当初、双方が R/D で合意したとおり 1993 年 9 月を以て、本件プロジェクトが終結することを目指して、上記「暫定技術協力計画」においては、すでに技術移転を終了した事項、ひきつづきフォローアップしている事項、並びに今後、実施すべき事項を明確にするとともに、円滑な終了時評価の実施のために「ロジカルフレームワーク」を提案したところ、最終的に双方は ANNEX-VII に示すとおりの内容で、合意に達した。

#### (3) 暫定実施計画 (T S I)

1988 年 9 月 2 日に合意した T S I を ANNEX-VIII のとおり修正することで、双方は合意した。

#### (4) 用語の変更

「イ」側から「Trade Training」を「Export Marketing」へ変更したい旨提案があり、協議の結果、双方は「Export Trade Training」へ変更することで、合意に達した。

### 2-2. インドネシア側からの要請事項

#### (1) 「展示」担当専門家の派遣

現在、「展示」研修に関しては、チーフアドバイザーが兼任しており、また、必要に応じ、短期専門家を派遣しているが、「イ」側は展示担当の長期専門家の派遣を要請した。これに対し、調査団は本要請を J I C A 本部へ伝達する旨、表明した。

#### (2) 「商業日本語」担当専門家の派遣

「イ」側は本件技術協力終結のちも、商業日本語担当専門家の派遣を継続されたい旨、要請した。これに対し調査団は、本要請は終了時評価の段階で協議すべきであると伝えた。

(3) 日本への食品比較調査団の派遣

「イ」側は、食品研修コースの参加者を日本へ派遣し、食品比較調査を実施する可能性を尋ねた。これに対し、調査団は上記研修は本件プロジェクトに含まれないことを表明した上で、他の適当な関係機関に照会されたい旨、伝えた。

(4) 機材供与

「イ」側は本件プロジェクトに関連して、下記のとおり、機材の追加供与を要請した。

- 1) 図書刊行物
- 2) 新設セミナールームへのAV機器
- 3) 検査品質管理研修の充実を図るための最新の機材、現地で入手困難なスペアパーツ類
- 4) コンピュータ研修に必要な機器
- 5) 展示及び商業日本語研修に必要な機材

これに対し、調査団は本件技術協力で対応可能な機材供与の原則を強調した上で、今後2年間に必要となる追加機材の要請一覧表を専門家と協議し、優先度を付して、作成すべきである旨、伝えた。

(5) 小規模QC試験室の設置

「イ」側は地方における研修コースの円滑な実施を目指して、小規模のQC試験室を供与されたい旨、要請した。これに対し調査団は、本要請は本件プロジェクトに含まれない旨、表明した。

(6) トラックの転用

「イ」側は、無償資金協力事業で供与したトラックを乗用車へ転用した旨、要請した。これに対し調査団は、すでにJICA事務所長から回答済みである旨、伝えた。

(7) 巡回セミナーの開催

「イ」側は日本側が協力したタイ、フィリピン並びにインドネシアの3カ所の貿易研修センター間での巡回セミナー又はワークショップの開催を提案した。これに対し調査団は、上記提案をJICA本部へ伝達する旨、表明した。

### 2-3. 調査団からの要請事項

調査団は「イ」側に対し、IETCの業務として、研修コース開催の必要性は十分に認識しているとした上で、日本人専門家からカウンターパートへの技術移転に最善の努力を「イ」側としても傾注すべきである旨、表明した。これに対し「イ」側からは、同感である旨の表明があった。

## 2-4. インドネシア側からの説明事項

### (1) IETCの予算

「イ」側はIETCの予算の実績と要求額をANNEX-IIのとおり説明した。

これに対し、調査団は技術移転の円滑な実施には開発予算の確保が重要であると強調した。また、商業日本語研修に必要な予算については、参加費の徴収のみではなく、IETC全体として対応する旨、「イ」側は表明した。

### (2) カウンターパートの配置

「イ」側は、カウンターパートの配置に関し、目標32名に対し現在は22名であることなど、その現状をANNEX-IIIを含めて説明した。

### (3) 研修コースの開催

「イ」側は研修コースの開催実績と今後の計画についてANNEX-Vのとおり説明した。

## 2-5. 調査団からの説明事項

調査団は、専門家の派遣実績と計画についてはANNEX-M、研修員の受入実績と計画についてはANNEX-Vのとおり説明した。

## 2-6. M/Mの作成

調査団は第3回合同委員会へ出席し、上述の協議事項を「日」、「イ」双方で確認した上で、M/Mを作成し、商業省次官、IETC所長代理並びに調査団長との間でM/Mへ署名交換を行った。

### 3. インドネシア側実施体制

#### 3-1 組織

商業省令により改編された I E T C の組織は次頁のとおりである。

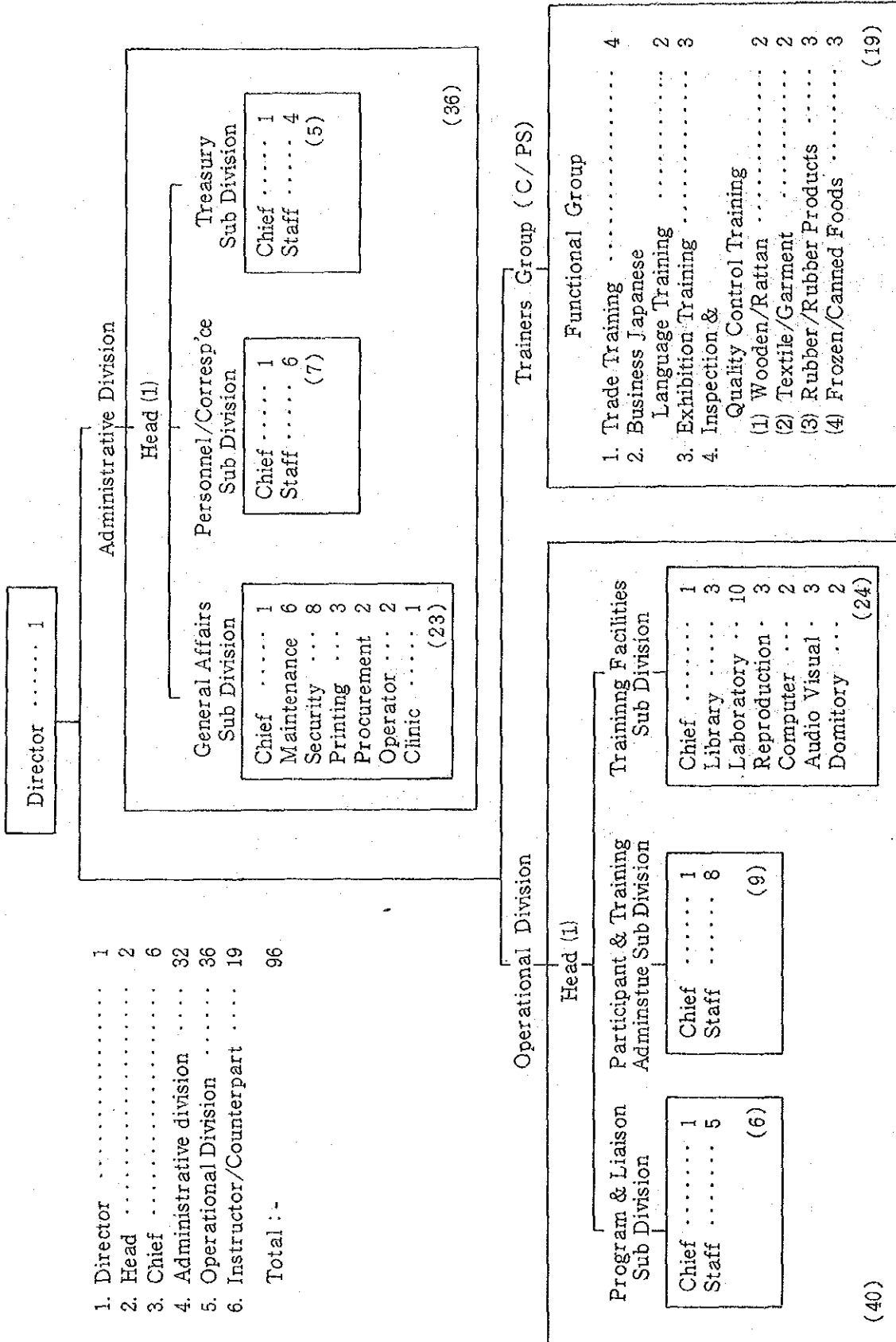
I E T C は当初管理部、庶務部及び貿易、商業日本語、展示、検査品質管理の各研修部の合計 6 部体制で発足したが、教育訓練機関の財政的自立を計るとの政府方針により 1990 年 12 月に 2 部 1 グループに改組された。

新組織は“ORGANIZATIONAL STRUCTURE”である Administrative Division 及び Operational Division と“FUNCTIONAL GROUP”である講師／カウンターパート陣で構成され、配置人員の総数は 100 余名である。また、左記 DIVISION 及びグループの守備範囲については、商業大臣決定“Minister's Decision”が詳細に規定しているが、端的に云えば管理部 (Administrative Division) はセンターの運営・維持・管理・予算・総務・庶務を所掌し、事業部 (Operational Division) は研修計画の策定・実施、研修関係先との連絡調整、研修参加者のリクルート、徴収した参加料 (Fee) の管理などを担当する。また、Functional Group の講師／カウンターパートは文字通り講師としてそれぞれの研修コースに専従する。

新組織が早急に調整をせまられている問題に Functional Group と Operational Division 間の守備範囲の相互乗り入れがある。この相互乗り入れは言わば過渡期にある新組織にとっては止むを得ぬ臨時的措置である。しかし、専門家の技術移転活動や研修事業への効果的な取り組みのために Functional Group が本来業務に専念出来るよう早急な条件整備が必要である。イ側も認識を深くしており、この問題の早期解決を期待したい。

IETC PERSONNEL BY DIVISION & GROUP

- 1. Director ..... 1
  - 2. Head ..... 2
  - 3. Chief ..... 6
  - 4. Administrative division ..... 32
  - 5. Operational Division ..... 36
  - 6. Instructor/Counterpart ..... 19
- Total :- 96





### 3-2. 予算措置

I E T Cの予算は年度によっては前年比倍増に近い伸び率を示している(次頁参照)。

予算の柱は1989年度及び1990年度はともに政府予算である“開発予算”の1本であった。しかし、1991年度にはこの開発予算に自主財源(研修参加者から徴収する参加料～Fee)が加わって2本建となり、1992年度にはこの2本建に“ルーティン予算”が加わり3本建となった。

しかし、この3本建は近い将来自主財源プラスルーティン予算の2本建となる。この方針は教育訓練機関の財政的自立を計るとの先の政府決定に基づくものである。自主財源の安定的確保のためにしかるべき長期的戦略をたてることが今後のI E T C事業の発展にとって重要であることは認識できるが、同時にプロジェクト協力期間中は技術移転を着実に進めるために、開発予算を十分確保すべきことを申し入れた。

インドネシア貿易研修センター(IETC)の年度別予算

費目	1989/90		1990/91		1991/92		1992/93	
	予算	決算	予算	決算	予算	支出(10月末)	要求	支出
1. 政府予算	千ルピア 315,819	千ルピア 214,820	千ルピア 675,040 ②	千ルピア 667,209	千ルピア 700,000 ③	千ルピア 378,146	千ルピア 1,550,000	千ルピア
(1) 開発予算	315,819	214,820	675,040 ②	667,209	700,000 ③	378,146	265,086	
人件費	7,744	4,370	244,298	165,598	137,364	101,129	...	
消耗品費	3,200	3,178	106,468	99,359	79,705	50,290	...	
資機材費	23,895	23,658	26,323	26,323	14,000	8,166	...	
旅費	14,490	12,891	59,262	48,187	31,725	13,525	...	
工事費	73,882	23,768	41,600	41,600	42,340	24,696	...	
その他経費	122,990	93,862	197,089	286,142	358,866	180,338	...	
研修活動費	48,368	33,933	①	0	①	0	...	
プログラム開発費	21,250	19,160	①	0	①	0	...	
(2) ルーティン予算	0	0	0	0	0	0	1,284,914	
人件費	0	0	0	0	0	0	291,054	
資機材費	0	0	0	0	0	0	564,246	
維持管理費	0	0	0	0	0	0	372,104	
旅費	0	0	0	0	0	0	57,510	
2. 自主財源	0	0	0	0	560,000 ④	79,104	...	
研修開催費	0	0	0	0	560,000 ④	79,104	検討中	
合計	315,819	214,820	675,040	667,209	1,260,000	457,250	...	

- 注：① 予算費目の立て方が、89/90年度とは異なる。  
 ② 19,268千ルピアの商業省のヒモ付き予算額を含む。(IETCの予算ではない)  
 ③ 173,505千ルピアの商業省のヒモ付き予算額を含む。(IETCの予算ではない)  
 ④ 合計28回の各種研修コース(非補助金)開設費目。

### 3-3. カウンターパート配置

インドネシア側の都合で時に増減があり、R/Dとミニッツで合意した定数32名に対して現在の充足率は、下に示すとおり実質65%程度の22名で、しかも分野によりバラつきがあり、その早急な是正が求められる。また、貿易研修、展示研修、木工・ラタン、繊維・衣料品の4分野では、新規にカウンターパートの追加リクルートが緊急課題であり、あらためてインドネシア側に追加リクルートの実施を申し入れた。

なお、インドネシア側の説明によると、現在、4名のカウンターパート候補者が、ゴム、木工、繊維の各分野にノミネートされているとのことである。

研修の分野	定員	現員	不足
貿易研修	8名	6名	2名
商業日本語研修	3	3	0
展示研修	5	2	3
検査品質管理研修	(16)	(11)	(5)
木工・ラタン製品	4	2	2
繊維・衣料品	4	2	2
ゴム・同製品	4	3	1
冷凍・缶詰食品	4	4	0
合計	32名	22名	10名

なお、カウンターパート配置の実績は次頁のとおりである。

ITIC COUNTERPART PERSONNELS' ASSIGNMENT

Fields & Names	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94								
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12			
1. Export Trade Training (1) Mr. Euchlis Syahminan (2) Ms. Handaya Retno (3) Mr. Nurdin Noor (4) Ms. Retno Kusumo Astuti (5) Mr. Hochamad Andreas Anugerah (6) Ms. Utari Nurmaningsih (7) Mr. Rade Sulstarwo (8) Mr. Bambang Hulyatno (9) Mr. I. C. W. Pramono (10) Drs. Achmad Achbad (11) Mr. Hidayat				X																				
2. Business Japanese Language Training (1) Ms. Istiati Hendraswani (2) Ms. Julia G. Silalahi (3) Ms. Zakiah Henip (4) Ms. Sutjaningsih									X															
3. Exhibition Training (1) Mr. Saor M. Tambunan (2) Ms. Nuraili (3) Mr. Merti Kanto Batangtaris (4) Mr. Mohamad Taufiqurrahman (5) Ms. Nedy Neswir															X									
4. Inspection & Quality Control Training (1) Wooden/Rattan Products ① Mr. Hadi Santoso ② Mr. Hardjono (2) Textile/Garments ① Mr. Huzairin Pantunrangi ② Ms. Nuz Nuzulio Ishak (3) Rubber/Rubber Products ① Mr. Januar ② Ms. Haryati Hidayah ③ Mr. S. E. Nainngolan ④ Mr. Ery Norvrizal Yunas ⑤ Ms. Marlana (4) Frozen/Canned Foods ① Ms. Husnainie Hasan Hanafi ② Ms. Merry Marwati ③ Mr. Wawan Sudarnawan ④ Mr. Itaiwardi																								

## 4. 暫定実施計画

### 4-1 専門家派遣

#### ① 長期専門家

それぞれの分野に常時9名の長期専門家を派遣する計画となっている。現在、貿易研修担当2名のうち1名が欠員となっているが、本年11月には派遣する予定である。

インドネシア側より、現在はリーダーが兼任している展示分野の専任の長期専門家派遣要請があったが、本邦に持ち帰り検討することとした。

#### ② 短期専門家

平成2年度に4名を派遣し、平成3年度は6名を派遣する予定である。派遣に関しては長期専門家の所属先等を通して、早めにリクルートにとりかかる必要がある。なお、平成4年度も6名程度派遣する予定である。

専門家の派遣実績は次頁のとおりである。このうち、平成元年度に派遣した巡回指導チーム(3名)、及び、平成2年度に派遣した茂岡短専(機材据付)は表中には割愛してある。

長期及び短期専門家の派遣実績

区分	1988/89				1989/90				1990/91				1991/92				1992/93				1993/94					
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10
1. 長期専門家																										
(1) リーダー	(着任)				(山本 隆史)				(延長)						(交替)											
(2) 調査員	(着任)				(平山 隆馬)				(延長)						(交替)											
(3) 貿易研修担当					(栗原 徳弘)				(延長)						(交替予定)											
(4) 貿易研修担当					(菅木 桂城)				(帰国)						(着任予定)				(近重 均)							
(5) 商業日本語研修担当					(本多 敏子)				(交替)						(大矢 大輔)											
(6) 展示研修担当 (リーダーの兼務)					(山本 隆史)				(延長)						(交替)											
(7) 検査品質管理研修																										
① 木工・ラタン製品					(着任)				(佐野 吉雅)						(交替)				(竹内 阪蔵)							
② 繊維・衣料品					(着任)				(榎間 孝光)						(着任)				(橋村 恒男)							
③ ゴム・同製品					(着任)				(山本 慧介)						(延長)				(交替予定)							
④ 冷凍・缶詰食品									(着任)						(菊地 健)				(交替予定)							
合計(9名)	5名				8名				7名																	
2. 短期専門家																										
(1) 貿易研修分野									(岩下義一郎)									92/1								
(2) 商業日本語研修分野									(高橋英男)																	
(3) 展示研修分野																										
(4) 検査品質管理研修分野																										
① 木工・ラタン製品																		92/1								
② 繊維・衣料品									(堀 勉 裕)									91/12								
③ ゴム・同製品																		(今村高昭)								
④ 冷凍・缶詰食品																		91/11								
合計	0				0				4名					6名(予定)												

#### 4-2. 研修員受入れ

研修員受入れの実績と予定数は次頁のとおりである。

本プロジェクトの場合、国内支援委員会等の一元的な受入れ窓口がないため、長期専門家の所属先を通じ、効果的な本邦研修実施が必要である。

#### 4-3. 機材供与

無償資金協力にて供与した機材を補完する意味でプロジェクト協力の中でも機材供与を実施している。

これまで、自動車や、各種試験機器、試薬品、教材、書籍等を供与した。

年度別・分野別の研修生派遣実績と予定の内訳

研修分野	C/P (R/D, ミニッツ)		研修生の派遣						実際の派遣		備考 (1991/92)
	人数	比率	88/89	89/90	90/91	91/92	92/93	93/94	比率	実数	
1. 管理部門の研修	人	%	-	人	人	人	人	人	人	人	申請中
2. 貿易研修	8	25.0	2	2	1	1	1		6.25	7	07/17～08/28
3. 商業日本語研修	3	9.4	0	1	1	0	1		2.35	3	
4. 展示研修	5	15.6	1	0	0	1	1		3.90	3	04/19～04/28
5. 検査品質管理研修	(16)	(50.0)	(0)	(3)	(0)	(3)	(4)		(2.50)	(12)	
(1) 木工・ラタン製品	4	12.5	0	0	0	1	1		3.13	3	10/28～12/17
(2) 繊維・衣料品	4	12.5	0	1	0	1	1		3.13	3	11/03～12/13
(3) 天然ゴム・同製品	4	12.5	0	1	0	0	1		3.13	3	
(4) 冷凍・缶詰食品	4	12.5	0	1	0	1	1		3.13	3	92/1月以降
6. グループ研修 パッケージング関係	-	-	-	-	-	1①	-		-	-	8/23～10/31
合計	32	100.0	3	6	2+2=4	6+2=8	7+1=8②		25.00	25	

注：① 研修生は繊維・衣料品分野より派遣。

② 申請の予定



## 5. 技術移転の進捗状況

### 5-1. 貿易研修分野

#### ① 概説

本分野は、インドネシア製品の輸出を中心とした輸出入の手続き、理論、輸出戦略等を I E T Cカウンターパートに指導することを目的としている。全体の指導内容を、基礎コース、上級コース、貿易マネジメントの3コースに分けて実施されている。具体的な指導項目及び、技術協力計画は後に示すとおりである。

#### ② 技術移転進捗状況

配属されている6名のカウンターパートが比較的優秀なこともあり、全体的に言うと順調に進んでいる。商業省次官の方針により、研修コースの講師をカウンターパートが務めるようになるまで時間がかかったが、現在では基礎の講師についてはカウンターパート全員が務めている。専門家はカウンターパートに対して、主に下記の方法で技術移転を行っている。

- 1) 教程開発
- 2) テキスト開発および翻訳
- 3) 研修コース受講生へのカウンターパートとの共同講義
- 4) カウンターパートへの対面研修および合宿研修
- 5) カウンターパートとの共同ローカルサーベイ
- 6) カウンターパートの講義演習プレゼンテーション指導

これを本邦研修により補うべく実施しているが、上記のうち、共同講義が技術移転、最新情報の取得、および教授法の指導のために特に有効のようである。

#### ③ 問題点

カウンターパートは貿易に関する基礎知識はあるものの、実務経験に乏しい。また、インドネシアの貿易政策中心の学習をしており、現場の感覚に乏しい。したがって、専門家は工場視察や現場実習等により実務能力を向上させる必要がある。また、同時に、カウンターパートの学習意欲に応えるために現地に不足している書籍等をできるだけ多く供与する必要がある。

また、マネジメントコースについては、その内容が「イ」側C/Pの受容能力を越える等の理由で、コース計画から削除してほしい旨要望が出ていることが現派遣中専門家より報告された。本件については、今後の検討課題として「イ」側C/Pとも協議していく旨、併せ報告された。

貿易研修  
Revised on October 28, 1991

暫定技術協力計画

項 目	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94					
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12
<p>&lt;基 礎&gt;</p> <p>1. 研修コース計画</p> <p>1) 資料・情報収集</p> <p>2) 市場調査</p> <p>3) 教科課程確立</p> <p>4) 教科書作成</p> <p>2. 技術移転計画</p> <p>1) 教科編纂・執筆者</p> <p>2) セミナー、オーガナイザー</p> <p>3) 講師</p> <p>4) セミナー総合司会者</p> <p>5) 情報アナリスト、</p>																					
<p>&lt;上 級&gt;</p> <p>1. 研修コース計画</p> <p>1) 研修教材開発</p> <p>2) 技術移転計画</p> <p>(1) 教科編纂・執筆者</p> <p>(2) セミナー、オーガナイザー</p> <p>(3) 講師</p> <p>(4) セミナー総合司会者</p> <p>(5) 情報アナリスト</p> <p>&lt;マネージメント&gt;</p> <p>1. 研修コース計画</p> <p>2. 技術移転計画</p>																					

## A 基礎コース

### I 一般情報

1. 世界貿易の状況
  - 1) 貿易の歴史とその意義
  - 2) 世界貿易の枠組み－GATT体制
  - 3) 最近の世界経済・貿易の特徴
2. インドネシアと国際貿易
  - 1) インドネシア貿易史
  - 2) 輸出の動向
3. インドネシア輸出戦略
  - 1) 第5次5ヶ年計画の枠組み
  - 2) 外貨獲得・雇用機会増大・規制緩和
4. BPKEとB4BMの役割
  - 1) BPKE－輸出金融統計庁
  - 2) B4BM－輸入関税返戻委員会

### II 貿易情報

1. インドネシアの輸出関係法令
  - 1) 輸出規制対象品目及び対象国
  - 2) 運用法令及び手続き
  - 3) 税法
  - 4) 資金法令及び手続き
2. 日本の輸入関係法令
  - 1) 国内関係法による輸入規制  
食品衛生法、植物防疫法など
  - 2) 国内流通に関連する規制  
消費生活用製品安全法
  - 3) 貿易関係法による輸入規制  
関税定率法、貿易管理令

3. インドネシア政府の貿易政策
  - 1) 非石油産品輸出振興策
  - 2) 製品輸出政策
  - 3) 貿易関係機関
  - 4) インドネシア貿易の問題点
4. 輸出商品の開発
  - 1) 輸出商品の開発手法
  - 2) インドネシアの主要軽工業の現状と輸出の可能性
  - 3) 産業基地の整備状況と開発方向
5. 特定市場の貿易情報収集
  - 1) 情報の種類
  - 2) 情報源
6. 輸出マーケティング
  - 1) 市場調査
  - 2) 輸出戦略と方針確立
  - 3) 供給体制の確立
  - 4) 輸出組織と要員の確保

### Ⅲ 商 談

1. 取引関係の結成
  - 1) 輸出市場の探究
  - 2) 取引先の選定
  - 3) 取引条件の協定
  - 4) 代理店の選定
2. 取引開始から受注まで
  - 1) 国内市場の状況把握
  - 2) 海外需要の創造
  - 3) 見本・商品目録・値段表の送付
  - 4) 引合とオファー
  - 5) 受諾と成約
  - 6) 為替リスクの回避

#### Ⅳ 輸出手続

1. 輸出商品の準備
  - 1) 輸出商品の仕入
  - 2) 輸出前貸金融
  - 3) 注文書・契約書の到着
  - 4) 加工指図書を作成
  - 5) 信用状・支払保証状の入手
  - 6) 輸出品の検査
  - 7) 輸出包装
2. 本船と保険の手配
  - 1) 個品運送契約
  - 2) 傭船契約
  - 3) 航空貨物業務
  - 4) C I F 建輸出の保険
  - 5) F O B ・ C & F 建の保険
  - 6) 航空貨物の保険
3. 輸出通関と船積手続
  - 1) 輸出承認
  - 2) その他の輸出規制
  - 3) 輸出通関
  - 4) 船積と船荷証券

#### Ⅴ 輸出代金の回収

- 1) 船積書類の整備
- 2) L / C ベースによる代金の受領
- 3) D / P ・ D / A ベースによる代金の受領
- 4) その他の輸出代金の受領

## B 上級コース

### その1 特定市場輸出対策

下記の中から(1)、(2)、(3)及び(6)をコース初年度(1991)に実行する。

- (1) 輸出マーケティング技術
- (2) 輸出契約の内容
- (3) コスト計算と輸出価格の設定
- (4) 商談の進め方
- (5) 輸出取引の条件
- (6) 検査と品質管理
- (7) 包装・輸出梱包
- (8) 輸送と船積
- (9) 海上保険
- (10) 貿易フレーム

即ち

1. 輸出マーケティング技術
  - 1) 市場調査の方法
  - 2) 市場志向の意味
  - 3) 商品政策
  - 4) 販売政策
  - 5) 販売促進政策
  - 6) 供給政策
2. 輸出契約の内容
  - 1) 商品(品名・品質)
  - 2) 数量
  - 3) 価格
  - 4) 引渡し
  - 5) 保険
  - 6) 決済

### 3. 原価計算と輸出価格の設定

- 1) 輸出原価と価格
- 2) 価格決定要因
- 3) 価格構成
- 4) 原価要素

### 4. 検査と品質管理

- 1) 主要国の規格の概要
- 2) 輸出品検査項目
- 3) 輸出品検査時点
- 4) 自主検査と品質管理
- 5) 公的検査機関
- 6) 不良品の発見と措置

## その2 特定製品の輸出対策

特定製品毎のグループに分け、次のような段階を踏みながら実施する。

### ラタン家具の一例

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. 輸出マーケティングの計画 | 日本向け              |
| 2. 市場情報源        | ASMINDO・バイヤー国際見本市 |
| 3. 流通経路         | 中小商社・大手家具商        |
| 4. 輸出向け商品       | 消費者の生活様式と好に合致     |
| 5. 船積           | コンテナ・FOB          |
| 6. 決済条件         | L/C               |
| 7. その他          | 材料輸出禁止            |

## C 貿易マネージメント研修コース

1. 貿易情報
2. 金融
3. 輸出マーケティング調査
4. 輸出商品
5. 輸出価格
6. 取引先
7. 展示会・見本市
8. 従業員対策
9. その他



## 5-2. 商業日本語分野

### ① 概 説

本分野は、インドネシアの商取引関係者が日本語により商業交渉を行なえるようにすることを目的とするものである。基礎、中級、上級の3コースに分けて実施しており、技術移転計画は次頁のとおりである。

### ② 技術移転進捗状況

カウンターパートの商業日本語に対する基礎知識等に不足していることをふまえて、トレーニングコース開催の中で教授法を指導する等、有効な技術移転方法を考案しながら実施している。

### ③ 問題点

本研修コース参加者の便宜を考慮して、イブニングコースの開催を今後検討する必要がある。

暫定技術協力計画  
(商業日本語)

1991年10月28日 見直し分

区分	1988/89	1989/1990	1990/1991	1991/1992	1992/1993	1993
	10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10
1 日本語教育	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1) 発音	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) 文法	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) 語彙	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) 作文	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) 読解	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2 日本語教授法	.....	.....	.....	.....	.....	.....
* 初級コース	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1) 発音	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) 文字	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) 語彙	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) 文法	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) 会話	.....	.....	.....	.....	.....	.....
6) スピーチ	.....	.....	.....	.....	.....	.....
* 中級コース	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1) 文字	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) 語彙	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) 文法	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) 作文	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) 読解	.....	.....	.....	.....	.....	.....
* 上級コース	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1) 文字	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) 語彙	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) 読解	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3 教材作成	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1) 教科書	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) 練習帳	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) 試験問題	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) 宿題	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) 聴解テープ	.....	.....	.....	.....	.....	.....
6) フラッシュカード	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4 ワークプロ指導	.....	.....	.....	.....	.....	.....

## 商業日本語技術移転計画

### \* 初級コース

#### 1. 授業準備

#### 2. 教材の使い方

: フラッシュカード

: テープレコーダー

: 板書用ボード

: その他

#### 3. 教材等整理

#### 4. 教授法

##### (1) 発音

(2) 文字の読み書き「ひらがな、かたかな、難字=100」

##### (3) 書き取り

##### (4) 語彙

##### (5) 文法

##### (6) 読解

##### (7) 会話 : 挨拶

: ロールプレイ

##### (8) スピーチ: プレゼンテーション、作文

##### (9) 日本文化

#### 5. 評価法

### \* 中級コース

#### 1. 授業準備

#### 2. 教授法

#### 3. 評価法

### \* 上級コース

-現在思案中-

\* 日本語教育

1. 文法
2. 文字
3. 発音
4. 作文
5. 読解

\* ワープロ指導

1. 使い方
2. 書類作成法

\* 教師心得

\* その他

### 5-3. 展示研修分野

#### ① 概説

本分野は、海外見本市への参加を輸出促進対策の重要な一環と考えるインドネシア政府の意向に沿って、特に潜在的な製造・輸出業者やその他の中小零細業者を対象に、見本市参加の具体的なノウハウを指導できる人材を養成すべく、カウンターパートへの技術移転を行っている。

#### ② 技術移転進捗状況

91年9月までIETCの展示研修部門に配置されていた3名のカウンターパートは、いずれも元はインドネシア輸出振興庁(NAFED)に所属し、R/Dで合意した建築・建設等の特殊分野の知識こそないものの、出身母体に在籍中は、数多くの海外見本市を手掛けた実務経験者である。

従って、展示研修に関する技術移転計画の作成や研修実施については、専門家がこれらカウンターパートと協議した結果、基礎コースと上級コースをそれぞれ一般業者とこれを取纏めて見本市に参加するコーディネーターを対象に調整した方が適切との結論となり、次にその準備に着手した。すなわち、

基礎コース：いかにして海外見本市に参加するか……………一般業者

上級コース：いかにして海外見本市を主催するか……………コーディネーター及び一般業者  
カウンターパートは、一般業者が海外見本市に参加するために必要なノウハウが中心となる基礎コースの実施に求められる程度の知識と経験は、すでに断片的にしる十分に持っている。従って、これを実際の研修に活用できるよう体系的な基礎知識として整理し取纏めることが、今後の課題である。

#### ③ 問題点

長期専門家による指導を補完する目的で、平成2年度、3年度の2度に亘り、JETROより短期専門家を派遣し、デザイン手法の技術的な指導及び見本市のコーディネート方法の指導を行ったが、今後の技術移転の進め方を「イ」側の要望を踏まえたいうで、検討する必要がある。

鑑定技術協力計画  
(展示研修)

1991年10月28日 見直し分

区分	1988/89		1989/90		1990/91		1991/92		1992/93		1993/94					
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10		
1. 基礎 1) 情報収集 2) カリキュラムの見直し 3) 教材の改良 4) 見本市への参加 5) 見本市への役割 6) 見本市の開催 7) 見本市の開催 8) 見本市の開催 9) 見本市の開催 10) 見本市の開催	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2. 上級 1) 見本市の選定 2) プラズマの設計 3) 展示場の設計 4) 参加者の募集 5) 出展物の発送 6) 会場施設の整備 7) 広報・宣伝 8) 評価と反省 9) 展示スペース 10) ケース・スタディ	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3. 短期研修 1) 情報収集 2) カリキュラムの選定 3) 原案(英文)の作成 4) 見直し 5) 教材の作成	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4. 短期研修(非政府予算) 1) 情報収集 2) カリキュラムの選定 3) 原案(英文)の作成 4) 見直し 5) 教材の作成	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....

## 展示研修に係わる技術移転計画

「基礎コース」 — 日本の見本市に参加するために —

### 技術移転の主要な内容

1. 情報収集
2. カリキュラムの見直し
3. 教材の改良
4. 具体的な内容
  - (1) 見本市の紹介
    - ① 世界の見本市
    - ② 日本の見本市
    - ③ インドネシアの見本市
  - (2) 見本市への参加
    - ① 単独参加
    - ② NAFED を通じた参加
    - ③ 招聘による参加
  - (3) 見本市の役割
    - ① 見本市の性格
    - ② 情報交換の場
    - ③ 見本市の選択
  - (4) 出品商品の選定
    - ① 生産・供給能力
    - ② 輸出商品の開発
    - ③ 出品商品の選定
  - (5) 事前準備
    - ① 情報収集の方法
    - ② 収集情報の内容
    - ③ 必要資料の作成
  - (6) 見本市会場
    - ① 小間の装飾と展示
    - ② 重点商品の扱い
    - ③ 宣伝・P R
  - (7) 引合・照会
    - ① 情報・資料の提供
    - ② 商談と取引先の開拓
    - ③ 市場調査
  - (8) 事後処理
    - ① 商談のフォローアップ
    - ② 商品改良と新サンプル
    - ③ 輸出契約に向けて

# 展示研修に係わる技術移転計画 「上級コース」 — 日本（海外）で見本市を開催するには —

コーディネーターと一般業者を対象

## 技術移転の主要な内容

1. 見本市の選定
  - (1) 輸出振興政策と関係業界
  - (2) 輸出促進対象品目と見本市
  - (3) 参加見本市の選定
2. 展示ブースの確保
  - (1) 参加要領の入手
  - (2) 参加予算の積算
  - (3) 参加者の予想と申込み
3. 展示場の設計
  - (1) 基本テーマと全体の設計
  - (2) 出品物の調和と特色
  - (3) 展示・装飾業者との契約
4. 参加者の募集
  - (1) 募集条件の設定
  - (2) 参加者の募集
  - (3) オリエンテーション
5. 出品物の輸送
  - (1) 出品物の集荷
  - (2) 荷造と発送
  - (3) 出品者と出品物リスト
6. 会場の設営
  - (1) 出品物の搬入
  - (2) 展示・装飾
  - (3) アテンダント・通訳に対するオリエンテーション
7. 広報・宣伝
  - (1) 記者発表・レセプション等の開催
  - (2) 出品者リストへの広告掲載
  - (3) 業界専門誌紙への広告・記事広告
8. 評価と反省
  - (1) 引合・照会の集計
  - (2) 来場者に対するアンケート調査
  - (3) 総合評価と反省
9. 展示の実習
  - (1) 展示ホールでのシュミレーション
  - (2) 効果的な展示と装飾についての討論
10. ケース・スタディ
  - (1) 見本市・展示会等の見学
  - (2) 討論



#### 5-4. 輸出検査分野

##### (1) 繊維・衣料品

本分野の技術協力は、1989年4月に長期専門家を派遣して以来、現在までに2名の長期専門家及び1名の短期専門家が、I E T Cのカウンターパートの職員に対し試験・検査技術の指導及び諸外国の規格・基準、製造加工技術等に対する必要情報の提供並びにセミナー開催のために必要なコースカリキュラム、テキストの作成、講義内容のアドバイス等の協力を行ってきている。次にその詳細を示す。

##### ① 専門家派遣

本分野は、インドネシアにおける繊維製品の品質向上に資する試験・検査及び品質管理技術の協力を目的として、1989年4月以降次のとおり専門家を派遣している。

派遣区分	派遣期間	専門家氏名	専門分野
長期	1989. 4. 1 - 1991. 3. 31	福間 孝光	繊維製品の試験検査及び品質管理
長期	1991. 8. 2 - 1993. 8. 1	橋村 恒男	"
短期	1990. 11. 11 - 1990. 11. 25	塩飽 裕	衣料品の外観検査

今後の技術移転には、衣料品に重点を置くことから、衣料品製造面からの工程管理に詳しい次の分野の短期専門家派遣が要請された。

平成3年度 縫製品の検査及び品質管理

平成4年度 メリヤス製品の検査及び品質管理

##### ② カウンターパートの状況

I E T Cに配属されているカウンターパートは、4名の定員に対し、次の2名が配置されている。

(1) Ms. Nus Nuzulia Ishak 1991. 11. 5 - 1991. 12. 13 本邦研修予定

(2) Mr. Huzairin Patunrangi 1989. 9. 26 - 1989. 12. 17 及び

1991. 8. 26 - 1991. 10. 31 (8. 26 - 10. 20については、包装技術の集団研修に参加) 本邦研修

また、近々1名のC/Pが採用される予定である。

##### ③ 機材の状況

繊維・衣料品の試験に用いる試験機器は水を使用するものが多く、機器の保守を定期

的に行う必要がある。

供与又は携行された機材は、4ヶ月間の専門家のブランクにも係わらず機器が順調に作動することから、カウンターパートの機器に対する認識は十分にあり、メンテナンスは十分にされていると考えられる。

#### ④ 技術移転状況（参考別紙）

繊維・衣料品は、紡績・紡糸で製造される糸段階から、製織、製編、精練、漂白、染色、仕上げ、包装と幅広い工程で製品が作られている。従って、品質管理の指導項目も多岐にわたっており、各工程における試験・検査技術及び品質管理手法を指導する必要がある。

繊維ラボには、主として生地から衣料品を対象にした基礎的試験装置を設営してある。これは、IETCの研修コースへの参加者の所属企業が主に中小生地メーカーや縫製メーカーであるためである。

当初の技術移転は、これらの装置を用いた繊維鑑別、混用率、染色堅ろう度、織物・編物試験方法、包装材料試験方法等の試験技術の移転であり、これらの基礎的な試験項目については概ね終了している。

これまで7回実施された研修コースのカリキュラムやテキスト作成についての協力をを行っている。カウンターパートは、研修カリキュラムのスケジュールに合わせて、ラボの装置を活用しつつ、衣料品を除く分野での講義を行えるようになっている。

しかしながら、基礎的な講義は可能であっても、試験結果を評価する際に用いる基準値の考え方等、研修参加者からの質問に充分対応できるまでには至っておらず、特に、衣料品分野の知識が少なく今後重点を置く必要がある。更に、各生産工程における検査手法、品質管理手法についても今後の指導項目として残されている。

今後の予定は、中小の縫製メーカー及び衣料品輸出会社からの研修参加が今後見込まれること、また、C/Pへの技術移転が未終了である衣料品を最終ターゲットにおいての品質管理を指導することを軸とする。しかし、完成品である衣料品になる前に前述したように糸からの品質管理が必要となるので、糸から衣料品までの各工程での試験・検査、品質管理手法について規格や基準値を考慮し、幅広く指導する必要がある。

また、セミナーの開催において、今後参加企業を広く求めるにはジャカルタ地区だけでなく地方（例えば、繊維関連企業が多いバンドン地区等）でも開催できるよう準備することが望ましい。

全般的には、当初予定どおり、技術移転は進んでいるといえる。

⑤ 問題点

現在、カウンターパートが2名配置されているが、繊維の品質管理の実務経験に乏しく製造経験はない。従って、日本人専門家が指導した内容と本邦研修で習得した技術を主とした背景として講義に当たっている。研修コース開催中は、外部講師としてジャカルタ繊維研究所や民間企業からの派遣を依頼している。

今後、研修コースを運営してゆくには、カウンターパートを増員させ、日本人専門家からの技術移転の他、各自が勉強する余裕をもたせる必要がある。それと共に、外部機関、民間企業の協力継続が不可欠である。

**暫定技術協力計画**  
( 繊維・衣料品 )

1991年10月28日 見直し分

区 分	1988/89	1989/90	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94
	8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10
1. ラボ設置	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2. 試験方法	-----	-----	-----	-----	-----	-----
1) 繊維鑑別、混用率	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2) 染色堅ろう度試験	-----	-----	-----	-----	-----	-----
3) " 判定	-----	-----	-----	-----	-----	-----
4) 生地性能試験	-----	-----	-----	-----	-----	-----
5) 包装試験	-----	-----	-----	-----	-----	-----
6) 安全性試験	-----	-----	-----	-----	-----	-----
3. 検査方法	-----	-----	-----	-----	-----	-----
1) 生地検査	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2) 衣料品検査	-----	-----	-----	-----	-----	-----
4. 品質管理技術	-----	-----	-----	-----	-----	-----
1) 糸、生地、衣料品の 基準と品質管理技術	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2) 統計的手法と抜取り 検査	-----	-----	-----	-----	-----	-----
5. 研修コース実施準備 (カリキュラム及び テキスト作成助言)	-----	-----	-----	-----	-----	-----

## 繊維及び繊維製品の試験・検査と品質管理技術移転項目

### 1. 繊維及び繊維製品の知識

#### 1) 糸について

- ・ 繊維の種類、分類及びその特長
- ・ 糸の製造方法
- ・ 織度等について
- ・ その他糸についての知識

#### 2) 繊維の改良・改質について

- ・ 化学繊維の改質・改良
- ・ 風合い・染色性の改質・改良
- ・ 機能面の改質・改良
- ・ その他

#### 3) 生地について

- ・ 織物について
- ・ 編物について
- ・ レースについて
- ・ 不織布について
- ・ その他

#### 4) 染色及び仕上げ加工について

- ・ 染色（染料の種類、染色性等）、染色加工について
- ・ 仕上加工について

物理的及び化学的仕上加工

#### 5) 縫製及び商品設計について

- ・ 主材料、副材料について
- ・ 縫製について
- ・ 安全性について
- ・ 表示について
- ・ 設計について
- ・ 寸法について

### 2. 試験方法

#### 1) 繊維鑑別

- ・ 各繊維の性質
- ・ 溶解法、燃焼法
- ・ 機器分析

#### 2) 繊維混用率

- ・ 解除法
- ・ 溶解法
- ・ 比重法
- ・ 顕微鏡法

### 3) 一般織物及び編物試験方法

- ・番手
- ・組織
- ・より数
- ・密度
- ・厚さ
- ・引張強さ及び伸び率
- ・伸長弾性率
- ・伸長率
- ・伸長回復率及び残留ひずみ率
- ・破裂強さ
- ・引裂強さ
- ・摩耗強さ
- ・圧縮率及び圧縮弾性率
- ・剛軟度
- ・滑脱抵抗力
- ・防しわ性
- ・収縮率
- ・ウォッシュアンドウェア性
- ・洗濯試験
- ・ブリーツ性
- ・乾燥性
- ・吸水性
- ・防水性
- ・ピリング
- ・通気性
- ・保温性
- ・アイロン性
- ・燃焼性
- ・スナッグ
- ・縫目強さ
- ・耐電性
- ・防かび性
- ・防虫性
- ・伸縮性
- ・その他

### 4) 染色堅ろう度

- ・染色堅ろう度試験にかかわる通則
- ・日光
- ・耐光（カーボンアーク、キセノンアーク）
- ・洗濯
- ・熱湯
- ・水
- ・海水
- ・汗
- ・摩擦
- ・ホットプレッシング
- ・酸滴下
- ・アルカリ滴下
- ・水滴下
- ・酸化窒素ガス
- ・塩素漂白
- ・過酸化漂白
- ・ドライクリーニング
- ・有機溶剤
- ・ホルムアルデヒド
- ・塩素処理水
- ・光及び汗
- ・その他

## 5) 安全性

- ・加工剤の分析
- ・有害物質の定性・定量

## 3. 検査手法

### 1) 検査方法

- ・織物について
- ・縫製について
- ・編物について
- ・製品企画について
- ・染色について

### 2) 包装

- ・概要及び重要性
- ・包装方法
- ・包装素材について
- ・検査基準及び方法

## 4. 品質管理手法

- ・品質管理の基礎知識
- ・品質管理の導入方法
- ・統計手法の扱い方
- ・繊維製品の品質評価方法
- ・繊維製品品質基準の設定
- ・クレームの解析及びその対策

## 5. 研修開催準備

- 1) テキストの作成
- 2) カリキュラムの作成

(2) 木工・ラタン製品

木製家具及びラタン家具は、インドネシアに豊富に原材料が産出されることから、輸出産品として重要視されている。しかしながら、同国には家具関連の規格・基準が整備されておらず、製品に対する信頼性が低い。同国の製品を国際市場で販路を拡大するために、インドネシア側に各国の規格・基準情報の提供、試験・検査技術の指導を次のとおり行ってきた。

① 専門家派遣

インドネシアにおける木工・ラタン製品の品質向上に資する試験・検査及び品質管理技術の協力を目的として、1989年8月以降次のとおり専門家を派遣している。

派遣区分	派遣期間	専門家氏名	専門分野
長期	1989. 8. 1 - 1991. 7. 31	佐野 吉雅	試験検査及び品質管理
長期	1991. 7. 24 - 1993. 7. 23	竹内 阪蔵	”
短期	1990. 3. 27 - 1990. 4. 24	相川 光夫	家具塗装

今後の技術移転のため、「接着剤と接着特性」及び家具の接合部強度とデザイン要素を包含した「家具構造」の分野における短期専門家派遣が要請された。

② カウンターパートの状況

I E T Cに配属されているカウンターパートは、4名の定員に対し、次の2名が配置されている。

(1) Mr. Hadi Samtoso

(2) Mr. Hardjono 1991. 10. 28 - 1989. 12. 5 (10. 28 - 11. 25については、標準化・品質管理シニアセミナーの集団研修に参加) 本邦研修

③ 機材の状況

供与機材は、毎月チェックリストを基に定期点検・整備が行われ、何れの機器も順調に整備されている。この際に故障等が確認された場合は、早急に修理の実施又は代理店による修理の依頼を行っている。

しかしながら、これまでの故障は操作取扱のミスによるものより、研修コース受講者が誤って落下させたことによる機材の損傷が多い。



④ 技術移転状況

技術移転は、別紙の計画に基づき、供与機材と供試サンプルにより製品の試験・検査及びその結果の評価と判定に係る技術移転を実施している。これらの技術移転結果は、セミナーにおいて、C/P及び外部講師により、技術系政府職員（主として、品質管理センター及び商業省職員）、民間検査機関検査担当職員及び民間企業を対象として普及させている。内容が、品質管理・工程管理の部分が多いため、上級職員、管理者をセミナーの対象としている。

⑤ 問題点

現在、カウンターパート2名が配置されているが、1名は病気療養中であり実質は1名に対して技術移転を行う状況にある。他に4名の補助要員としてのオペレーターがいて、試料及び資料の作成、試験・測定の実験操作、機器の保守整備を主な業務として本プロジェクトに参加している。

今後の技術移転、研修コースの開催のためには、早急にカウンターパートを補充する必要がある。（近日中に1名補充される予定である。）

暫定技術協力計画  
〔木製家具及びラタン製品の検査と品質管理〕

項目	1989			1990			1991			1992			1993								
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12
1) 供与機器の保守・整備	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
2) 機器の適正使用方法の徹底指導	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
3) 家具類の性能試験・検査方法	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
1) 家具材料(木材・ラタン材)の特性試験方法と評価	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
2) 家具接合部の強度試験方法	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
3) 接着剤の強度特性	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
4) 塗料と塗装試験方法	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
5) 家具製品の採用試験方法	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
6) 包装材料(一部)試験方法	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
4) 品質管理並びに工程管理	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
5) カウンターパートの指導による技術移転	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
6) カウンターパートの指導	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				
7) 教材作成と資料の整理	[Progress bars showing activity from 1989 to 1993]																				

## 木製家具及びラタン製品の検査と品質管理技術移転計画

### 供与機材と輸出検査に関わる技術移転に必要な指導内容

1. 供与機器の保守・整備（点検リストにより定期的実施する）
  - 1) 試験機器の保守・点検
  - 2) 計測機器の保守・点検
  - 3) 光学機器等一般機器の保守・点検
  - 4) 工具及び実験用具の保守
  - 5) 試験体、供試品等実験資材の点検確認
  - 6) 実験環境の整理
  - 7) 安全管理（電動切削機器、大型機器類）
2. 機器類の適正使用指導
  - 1) 家具試験関連機器の使用方法
  - 2) 塗装試験関連機器の使用方法
  - 3) 包装試験関連機器の使用方法
  - 4) 計測機器の使用方法
  - 5) その他、治工具類の取扱い方法
3. 家具用材料の性能試験、検査方法（JIS 並びにISO に準拠）
  - 1) 家具用材料（木材、ラタン）の測定、試験方法
    - ・含水率、比重の測定方法
    - ・圧縮強度試験方法
    - ・引張強度試験方法
    - ・曲げ強度試験方法
    - ・せん断強度試験方法
    - ・材質検査と評価方法
  - 2) 接合部位別強度試験と判定方法
    - ・柄構造並びにダボ構造部材
    - ・T・L型接合部材
    - ・ラタン緊結接合部の強度試験
  - 3) 家具（製品）の実用試験方法
    - a. 強度試験（椅子、テーブル及びキャビネット類）
      - ・鉛直荷重試験方法

- ・水平荷重試験方法
- ・繰り返し衝撃荷重試験方法
- b. 安定性試験
- c. 操作性試験（とびら、引き出し等）
  - ・円滑性試験方法
  - ・取付強度試験方法
- d. 表面処理性能試験（木材、並びにラタン材）
  - ・塗膜の付着性試験方法
  - ・塗膜の厚さ試験方法
  - ・対摩耗性試験方法
  - ・塗膜の光沢度計測方法
  - ・塩水噴霧試験機による耐食性試験（家具用金具等）
- e. クッション、椅子貼り材料等副資材の試験方法
  - ・生地への耐摩耗性試験方法
  - ・スポンジ材料圧縮試験方法
- f. 視触検査方法
  - ・目視触感による、外観、塗装、及び仕上げの検査
- 4. 包装材料（一部）の試験方法
  - ・コルゲート紙の破裂度試験方法
  - ・引き裂き試験方法
  - ・包装函による圧縮試験方法
  - ・六角弧胴試験機による包装試験方法
- 5. 品質管理
  - 1) 家具の品質基準について
  - 2) 家具の基準認定制度について
  - 3) 家具の品質検査方法（外国規格との比較）
  - 4) インドネシア家具規格の原案検討
- 6. カウターパートの指導による技術移転
  - 1) 研修用テキストの作成
  - 2) 視聴覚教材、展示説明額面の作成と利用
  - 3) 品質試験に関わる資料の整理
  - 4) セミナーによる指導と普及

(3) ゴム・ゴム製品

本分野の技術協力は、1989年3月に長期専門家を派遣して以来、I E T Cのカウンターパートに対し試験・検査技術の指導及び諸外国の規格・基準、製造加工技術等に対する必要情報の提供並びにセミナー開催のために必要なコースカリキュラム、テキストの作成、講義内容のアドバイス等の協力を行ってきた。

① 専門家派遣

本分野は、インドネシアにおけるゴム・ゴム製品の品質向上に資する試験・検査及び品質管理技術の協力を目的として、1989年3月以降次のとおり専門家を派遣している。

派遣区分	派遣期間	専門家氏名	専門分野
長期	1989. 3. 29 - 1992. 3. 28	山本 慧介	試験検査及び品質管理
短期	1991. 7. 7 - 1991. 7. 28	今村 高昭	ゴム品質管理視聴覚教材作成のため

② カウンターパートの状況

カウンターパートは、4名の定員に対し、次の4名が配置されている。

- (1) Mr. Januar 1989. 9. 26 - 1989. 12. 17 本邦研修
- (2) Mr. Ery Norvriзал Yunas
- (3) Mr. Nainggolan
- (4) Ms. R. A. Marlana

ただし、英語の出来ないC/Pに代わり、近々2名のC/Pが採用される予定である。

③ 機材の状況

供与機材は、専門家の不在期間が無かったこともあり、何れの機器も順調に作動出来る状態にある。

④ 技術移転状況(参考別紙)

ゴム・ゴム製品分野における技術移転には、材料としてのゴムから、製品に至るまでの基礎知識、化学的及び物理的な試験、製造工程に必要な品質管理等、総合的に指導する必要がある。

これまでに、基礎知識及び品質管理に関する技術移転は概ね終了しているが、化学及

び物理の理論については、十分に理解されていないため、今後のフォローが必要である。試験技術については、物理試験はほぼ終了しており、今後は化学試験の技術移転を行う予定である。

ゴム製品は、製品ごとに異なる試験機や治具を用いて試験を行う必要があり、IETC内の試験機器で全ての製品に係る技術移転は不可能である。従って、今後カウンターパートの本邦研修においてそれらの研修を行う必要があるが、総合的にゴム製品を取り扱う企業がないため、国内各方面の協力が不可欠である。

#### ⑤ 問題点

現在、カウンターパートは4名配置されているが、ゴムの製造に関する経験がないため、技術移転、特に理論面において初歩から技術移転していく必要がある。

また、適切な英文資料の入手が困難なため、教材作成に時間を割かれており、技術移転と資料作成を両立させるための努力が必要である。

検査品質管理・監定技術協力計画  
(ゴム・ゴム製品)

1991年10月26日 見直し

区分	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94						
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	
1. ゴム・ゴム製品の基礎知識																						
1) 天然ゴムおよび天然ゴムラテックス																						
2) 合成ゴム																						
3) ゴム製品およびその他の配合剤																						
4) 生ゴムおよびラテックスの加工																						
5) ゴムの化学																						
6) ゴムの物理																						
7) ゴム製品の基礎知識および関連規格																						
2. 試験方法																						
1) 材料および製品の物理的試験方法																						
2) 材料および製品の化学的試験方法																						
3. 品質管理の知識																						
1) 品質管理																						
2) 品質管理の推進																						
3) 品質管理の基礎技法																						
4) 品質保証の基礎技法																						
5) 検査																						
6) 不合格ロットの処理																						
7) 多発するトラブルの例および配合設計																						

1991年10月28日見直し

1989年10月17日

## ゴム及びゴム製品の検査と品質管理技術移転計画

### 1. ゴム及びゴム製品の基礎知識

#### (1) 天然ゴムおよび天然ゴムラテックスについて

- ・ ゴム樹とラテックス
- ・ 生ゴムの種類と製造方法
- ・ 生ゴムの品質規格
- ・ 生ゴムの物性
- ・ 生ゴムの化学組成
- ・ 天然ゴムの化学構造

#### (2) 合成ゴムについて

- ・ 合成ゴムの分類
- ・ SBR
- ・ BR
- ・ IR
- ・ CR
- ・ NBR
- ・ IIR
- ・ EPM, EPDM
- ・ シリコーンゴム
- ・ クロルスルホン化ポリエチレン
- ・ フッ素ゴム
- ・ 多硫化ゴム
- ・ ウレタンゴム
- ・ アクリルゴム

#### (3) ゴム用薬品と配合剤について

- ・ 加硫剤、架橋剤
- ・ 加硫促進剤
- ・ 加硫促進助剤、活性剤、分散剤
- ・ 加硫遅延剤
- ・ 老化防止剤
- ・ 補強剤
- ・ 充填剤
- ・ 軟化剤、可塑剤、粘着付与剤、ペプタイザー
- ・ 着色剤
- ・ 特殊配合薬品
- ・ 溶剤
- ・ ラテックス用配合薬品

#### (4) ゴム、ラテックスの加工操作について

- ・ 素練り
- ・ 混練作業
- ・ カレンダー作業
- ・ 押出作業
- ・ のり引作業
- ・ 浸漬作業
- ・ 成型加工作業
- ・ 加硫作業
- ・ ラテックスの加工操作

#### (5) ゴムの化学について

- ・ 素練りの化学
- ・ 加硫の化学
- ・ 老化の化学
- ・ ゴム誘導体の合成
- ・ グラフト及びブロックポリマー



(6) ゴムの物理について

- ・用語の定義
- ・ゴムの分子構造と性質
- ・加工の理論
- ・補強の理論
- ・力学的挙動
- ・溶液粘度、可塑性
- ・加硫ゴムの物理

(7) ゴム製品の基礎知識および関連規格

- ・自動車タイヤ、チューブ
- ・ゴムベルト
- ・ゴムロール
- ・ゴム履物
- ・角糸ゴム
- ・電線
- ・ラテックスキャスト製品
- ・ゴム系接着剤
- ・自転車タイヤ、チューブ
- ・ゴムホース
- ・防振ゴム
- ・ゴム引布
- ・消ゴム
- ・ラテックス浸漬製品
- ・ラテックスゴム糸
- ・その他

2. 試験方法

(1) 材料と製品の物理試験方法

- ・試験片作成方法
- ・スコーチ試験
- ・粘着性試験
- ・引裂試験
- ・永久歪、クリープ
- ・反発弾性
- ・耐油試験
- ・耐候性試験
- ・低温試験
- ・可塑性試験
- ・加硫度試験
- ・引張試験
- ・圧縮試験
- ・硬さ試験
- ・摩耗試験
- ・熱老化試験
- ・屈曲亀裂試験
- ・各種関連試験法規格

(2) 原料ゴムと製品の化学的試験方法

1) 生ゴム、ラテックスの化学的分析方法

- ・揮発分
- ・ごみ
- ・アセトン抽出分
- ・マンガン分
- ・鉄分
- ・灰分
- ・ゴム炭化水素
- ・銅分
- ・窒素分
- ・Caster Oil Content

2) 加硫ゴムの分析方法

- ・試料採取方法
- ・アセトン抽出分
- ・比重
- ・遊離硫黄

- ・クロロホルム抽出分
- ・全硫黄
- ・無機硫黄
- ・ゴム鑑識法

- ・アルコール性水酸化カリウム抽出分
- ・灰分
- ・カーボンブラック

### 3. 品質管理の知識

#### (1) 品質管理

##### 1) 品質の意味

- ・品質、コスト、納期
- ・合致品質と適合品質
- ・当たり前品質と魅力的品質

##### 2) 品質論

- ・企業から考えた品質
- ・サービスの品質
- ・出来栄えの品質と損失の品質

##### 3) 管理とは

- ・作るシステムの質とその管理
- ・システムの質の向上

##### 4) 管理の目的の明確化

- ・計量化と標準化
- ・次工程はお客様
- ・各部門へのブレイクダウン

##### 5) 管理と改善

- ・現状分析
- ・統計的手法の活用
- ・報告とアクション

##### 6) 品質管理の意味と意義

- ・企業経営と品質管理の役割
- ・科学的管理運営
- ・機能別管理

##### 7) 品質管理と品質保証

- ・協業態勢
- ・外注管理
- ・品質保証の誕生
- ・TQCと品質保証
- ・品質保証の進め方

#### (2) 品質管理の推進

##### 1) 全社への方向付け

##### 2) 全社方針の徹底

##### 3) 部門別目標の設定と推進

##### 4) 社長診断とチェック

##### 5) 参画意識

##### 6) 問題意識、改善への意欲

##### 7) 品質をベースにしたコストと納期

##### 8) 品質は工程で作り込む

(3) 品質管理の基礎技法

1) 特性要因図

3) グラフ

5) ヒストグラム

7) 管理図

2) パレート図

4) チェックシート

6) 散布図

(4) 品質保証のための基礎技法

1) 品質展開

3) FMEA

5) QC工程図

2) FTA

4) デザインレビュー

(5) 検査

1) サンプルング

3) 官能検査

2) 抜取検査

(6) 不合格ロットの処置

1) 現品の処置

2) 再発防止

(7) ゴム製品多発トラブルの例と配合設計

1) ゴム製品多発トラブル例

2) 配合設計

・ 基本的考えかた

・ 耐熱性配合

・ 耐油性配合

・ 耐オゾン性配合

・ 耐寒性配合

・ 硬度調節

・ ブルーミング

・ その他

#### (4) 冷凍・缶詰食品

##### ① 技術移転の実績

###### 1) 専門家派遣

当該分野は、他の分野に比べ遅れて、1990年4月に長期専門家が着任したが、以来現在まで、カウンターパートへの技術移転等が概ね順調になされている。

一方、平成3年度計画において、農林水産省東京農林水産消費技術センターより短期専門家を派遣し、主として缶詰食品について、品質管理等に関する技術移転を行う予定である。

###### 2) カウンターパートの状況

4名のカウンターパートが配置され、当初予定の人員は確保されている。なお、カウンターパートの専門は、各々、薬学、微生物、食品化学及び食品工学と幅広い分野にわたっている。

###### 3) 日本への研修生の派遣

カウンターパートのうち、Ms. Husnainie Hasan Hanafi が、1989年8～11月の間、農林水産省農林規格検査所等において、日本の食品規格、品質分析法などの研修を受けるとともに、平成3年度計画においても、Ms. Merry Muryati が、1992年1月から日本における集団研修及び食品の品質分析法等に関する個別研修を受けることが予定されている。

###### 4) 機材の状況

カウンターパートへの技術移転や研修コース開催などに必要な微生物検査用器具、化学分析機器等の機材は、事業の進捗に応じて順次整備・補てんされてきている。

###### 5) 研修コースの開催

冷凍食品関係を中心に、1990/91年度に4回開催されており、1991/92年度も缶詰関係を含め5回の開催が予定されている。

###### 6) 技術移転の状況

当該分野は、長期専門家の派遣事情等により、スタートは遅れたものの、カウンターパートが実質上フルメンバーになるなど、現在は良好な活動態勢にある。また、研修コースも適宜開催されしかもその準備内容をカウンターパートへの技術移転内容に兼ねさせる等の運用により、技術協力計画に基づく技術移転は概ね順調に進んでいる。なお、カウンターパートの専門分野も多様であることから、各々の特性を活かした効果的な技術移転が期待される。

## ② 今後の技術移転計画及び問題点

### 1) 長期専門家の派遣

現在派遣されている長期専門家の任期が1992年4月までであることから、引き継ぎ期間等も考慮して、後任の入選が早急に必要である。

### 2) 短期専門家の派遣

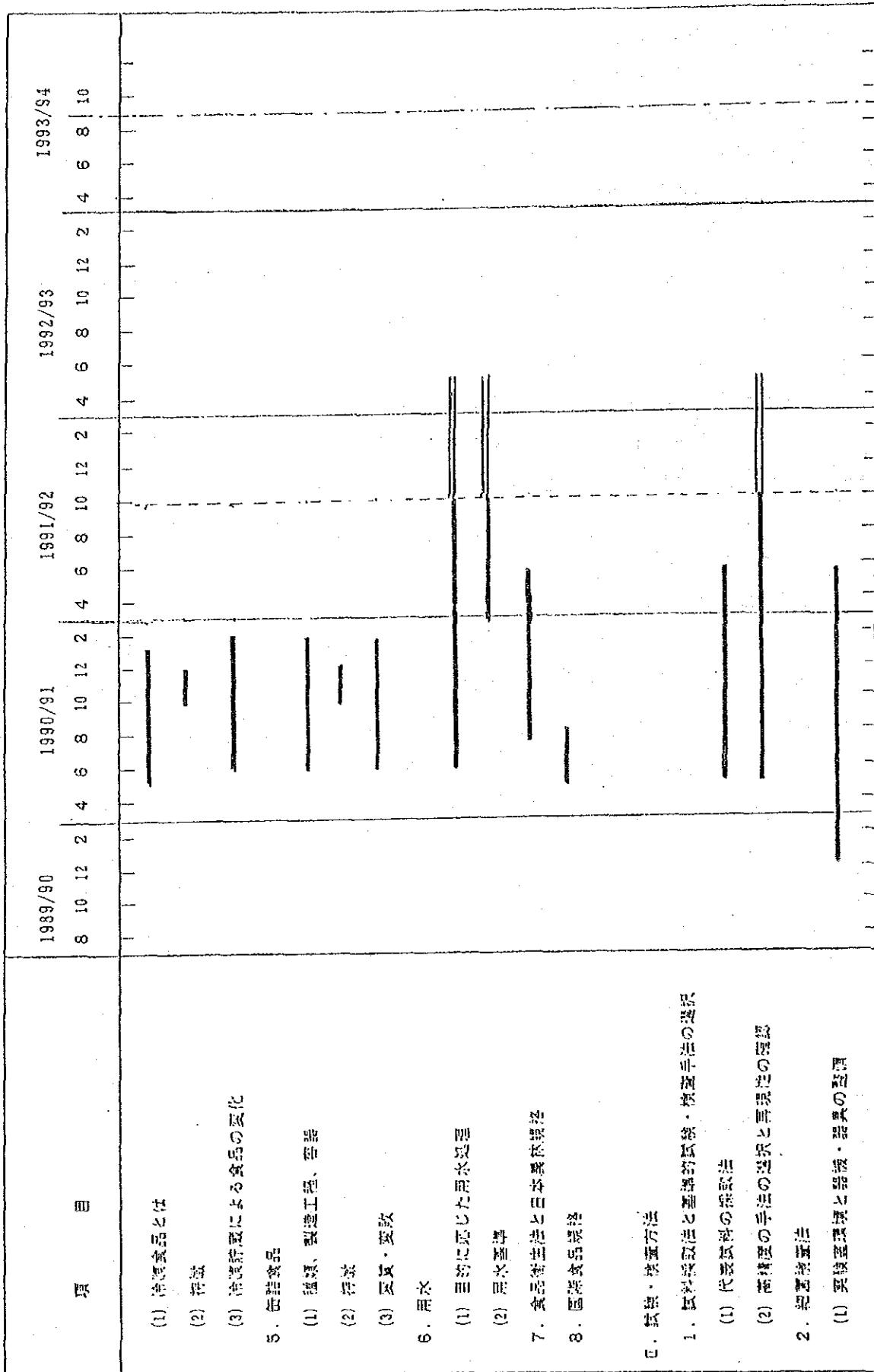
カウンターパートへの技術移転は、技術協力計画に基づき概ね良好になされているが、一部の専門的分野については、短期専門家による対応がより効果的であると判断されることから、今後、計画的な派遣を検討する必要がある。

### 3) カウンターパートの本邦研修

平成3年度計画の予定者も含め、これまで2名のカウンターパートの本邦研修がなされているが、本プロジェクトの実効を期すためには、今後も引き続き計画的な研修を検討する必要がある。特に、食品については、製造特性及び品質分析手法等が多様であり、かつ修得に比較的時間を要することから、日本における製造実態の把握等を踏まえた集中的な研修により大きな効果が期待される。

### 4) 機材の整備

現行の技術移転計画において必要な機材は基本的には充足されているが、今後のカウンターパートへの技術移転の進捗具合によっては、より高度な分析機器等の整備にも考慮する必要がある。また、技術移転の一環として、機材の注文先、注文方法等のソフト面の供与にも力を入れる必要がある。



# 暫定技術協力計画

(冷凍・缶詰食品の検査・品質管理)

(1991年10月28日 改定)

項 目	1989/90	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94
	8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10	8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10	8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10	8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10	8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10 12 2 4 6 8 10
1. 食品に関する基礎知識					
1. 食品に関する一般的要件					
(1) 食品と人間の健康との関係					
(2) 食品の一般成分					
(3) 食品の特殊成分					
(4) 食品と食文化					
(5) 食品の産地別					
2. 食品の品質要素と品質保持					
(1) 食品の品質要素					
(2) 食品の品質要素と検査条件					
(3) 食品の品質要素と品質保持技術					
3. 食品の衛生管理					
(1) 変敗微生物の種類と特徴					
(2) 細菌性食中毒					
(3) 自然性食中毒					
(4) 化学性食中毒					
(5) 食品添加物					
4. 冷凍食品					

項 目	1989/90		1990/91		1991/92		1992/93		1993/94				
	8	10	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10
(2) 各種細菌・真菌の検査法													
3. 化学的試験・検査法													
(1) 実験室環境と器械・器具の整備													
(2) 各種成分項目													
4. 官能検査													
(1) パネルの選定と管理、テスト環境の整備													
(2) テスト手法の選択と試料の提示方法													
(3) 結果の解釈(主成分分析、因子分析、 潜在構造分析)													
5. 特定品目の検査法													
(1) 冷凍食品検査法													
(2) 缶詰検査法													
Ⅳ. 品質管理について													
1. 生産から消費に至る品質と衛生の究明													
(1) 生産現場における品質管理													
(2) 流通過程における品質管理													
(3) 管理目的の明確化													
(4) チェックシステムと改善方針の確立													



項 目	1989/90				1990/91				1991/92				1992/93				1993/94					
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10		
(5) 品質管理と品質保証																						
2. 品質管理の基礎技法																						
3. 検査システムと結果のフィードバックシステム																						

## 6. トレーニングコース開催

1990年2月、貿易研修基礎コースが開講し研修事業が発足して以来、研修コースは着実に軌道に乗り、1991年度には自主財源コースの実施と業界の要請に応じた短期実務型コースの導入によりコース数・参加者数とも大幅に増大した。これにより、本プロジェクトの活動は自立に向けほぼ順調に推移していると云える。

しかし、早急な研修事業の増大に伴い、新たな問題も発生している。これには、従来のカウンターパートの不足の他に、先に述べた部・グループ間のデマケ調整問題、コース過多に起因する応募者不足、その結果発生するコース実施時期の繰延べと自主財源予算の見直し等々がある。

また、今後は、効果的な研修コース開催のため、長期的なビジョンも必要となってくる。最近、I E T Cは協同組合省と協調して同省のユニットをベースとした貿易振興に係る短期の実務コースを実施した。また、将来、主要都市で商業省のRegional Officeと連携して短期現地セミナーを開催する案などが検討されている。

このように、インドネシア側は積極的なコース開催に取り組んでいるが、上記のような事情により、専門家からカウンターパートへの技術移転がなされる時間が十分にとれないといった問題点が指摘されていた。この点に関しては、インドネシア側も同様の見解を示し、プロジェクト協力期間中の技術移転の重要性も認識していると発言があった。

今後、コース講師をカウンターパートが務める際に、講義案、カリキュラムを共同で開発したり、教授法を指導する等、トレーニングコースを有効に活用しての技術移転も考えてゆくべきであろう。

## 7. 今後の留意点

- (1) 本件プロジェクトは、「日」、「イ」双方の努力により全体としては、順調に進捗している。
- (2) しかしながら、日本側としては、専門家の派遣について、とくに下記について、十分に配慮することが望ましい。
  - 1) リーダー及び調整員については、適切な後任者を委嘱し、継続して派遣できるよう配慮すること。
  - 2) 任期満了となる専門家についても、継続して派遣できるように、配慮すること。
  - 3) 「展示研修」については、専任の専門家を委嘱し、派遣できるよう配慮すること。
- (3) 本件プロジェクトの合同委員会議長である商業省次官を高級又は準高級研修員として招聘することは、本件プロジェクトの円滑な実施にむけて、極めて有効であると思われる。



ニ ヲ ツ ツ



THE MINUTES OF THE MEETING  
BETWEEN THE JAPANESE TECHNICAL GUIDANCE TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF  
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA  
ON THE JAPANESE PROJECT-TYPE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT ON  
THE INDONESIA EXPORT TRAINING CENTER

The Japanese Technical Guidance Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Kenji Tomita, Special Technical Advisor, JICA, is visiting the Republic of Indonesia from October 21 to 29, 1991, for the purpose of reviewing the activities of the Project on the Indonesia Export Training Center in the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Project") and working out the technical cooperation plan for the further promotion of the Project.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team had a series of discussions and exchanged views with the authorities concerned of the Government of the Republic of Indonesia over the matters for the successful implementation of the Project in accordance with the Record of Discussions signed on September 2, 1988 in Jakarta.

As a result of the discussions, both parties mutually agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Jakarta, October 28, 1991

富田 堅二

Dr. Kenji Tomita  
Leader,  
Technical Guidance Team,  
Japan International Cooperation  
Agency,  
Japan

Soewardi Soepadi

Mr. Soewardi Soepadi  
Acting Director,  
Indonesia Export Training Center,  
Ministry of Trade,  
The Republic of Indonesia

Ulu Hasan

Mr. Bakir Hasan  
Secretary General,  
Ministry of Trade,  
The Republic of Indonesia

## THE ATTACHED DOCUMENT

### 1. Organization of the Project

The Indonesian side stated that the IETC organizational structure has been revised by the Ministry of Trade Decree No. 269/KP/XI/90 of November 14, 1990.

In relation to the above, both sides agreed to amend the organization chart of the Project of the Record of Discussions to the new chart as shown in ANNEX I.

### 2. Budget of the IETC

The Indonesian side explained the IETC budget from the fiscal year 1989/1990 to 1991/1992 and the proposed budget for the fiscal year 1992/1993 as shown in ANNEX II.

The Japanese side emphasized the importance of ensuring the development budget in order to implement the transfer of technology smoothly.

In response to the inquiry from the Japanese side about the budget of the Business Japanese Language Training, the Indonesian side stated that the Business Japanese Language Training would be operated by not only fees from the participants but also efforts of the IETC as a whole.

### 3. Counterpart Personnel

The Indonesian side stated that the IETC has not reached the target of 32 counterparts but has been able to supply 22. (The situation of the assignment of counterpart personnel is shown in ANNEX III.)

The Indonesian side explained that the constraint is the difficulty to recruit senior experienced instructors from the Ministry of Trade and to overcome this problem the IETC has recruited new personnel.

The Indonesian side informed four counterparts are proposed for Inspection and Quality Control Training (Rubber and Rubber Products, Wooden Furniture and Rattan Products, Textile and Garment).

(VB)

ko.



#### 4. Dispatch of Japanese Experts

As to the dispatch of Japanese experts, the Japanese side explained the past performance and present situation as shown in ANNEX IV.

In response to the request from the Indonesian side for the dispatch of an expert of Exhibition Training, the Japanese side stated that the request would be conveyed to JICA Headquarters.

The Indonesian side requested that the experts of Business Japanese Language Training to be extended after the Project terminated on September, 1993. The Japanese side informed that this proposal may be discussed at the stage of final evaluation of the Project.

#### 5. Training of Counterpart Personnel in Japan

As to the training of counterpart personnel in Japan, the Japanese side explained the past performance and present situation as shown in ANNEX V.

The Indonesian side inquired if participants could have a chance for field survey in Japan for comparative study of food companies. The Japanese side stated that such training is not included in the Project, and suggested to look for information from other institutions.

#### 6. Provision of Machinery and Equipment for the Project

The Japanese side emphasized the principle, that is, the equipment to be provided for the Project should be supplementary to the major equipment provided under the grant-aid program for the IETC.

With respect to the additional request for equipment from the Indonesian side, the Japanese side suggested to prepare through consultation with Japanese experts a list of equipment with priorities over the period of the remaining two years of the Project.

(15)

ko.

## 7. Technical Cooperation Program

Both sides agreed to amend the contents of the Japanese Technical Cooperation Program agreed on September 2, 1988 to the Tentative Technical Cooperation Program as shown in ANNEX VI.

The Japanese side proposed the draft of "the Logical Framework for Evaluation of the Project" for the smooth implementation of the joint evaluation of the Project. After discussion both sides agreed to adopt "the Logical Framework for Evaluation of the Project" as shown in ANNEX VII.

The Indonesian side requested a small quality control laboratory to be provided in the regions to make it easier to conduct training in the regions. The Japanese side stated that this request is not included in the Project.

The Japanese side stated that though they could realize the importance of implementation of training courses for the IETC activities, the Indonesian side is expected to devote their best efforts to the transfer of technology. The Indonesian side shared the views.

## 8. Tentative Schedule of Implementation

Both sides agreed to amend the Tentative Schedule of Implementation agreed on September 2, 1988 to the new one as shown in ANNEX VIII.

## 9. Implementation of Training

The Indonesian side explained the training activities for the past and present as shown in ANNEX IX.

## 10. Others

### (1) Change of Terminology

Both sides agreed to change the terminology "Trade Training" to "Export Trade Training".

(VZ)

ko.

(2) Truck

The Indonesian side reiterated their request for exchanging the truck for a passenger car. The Japanese side replied that the issue had been answered by the official letter No. 306/JICA/9/91 on September 16, 1991 signed by Mr. Akira Takahashi, Resident Representative of JICA, and requested to understand the Japanese stance on this issue.

(3) Roving Seminar

The Indonesian side proposed to organize a roving seminar or workshop among three Training Centers in the south east Asian countries (cooperated by the Japanese side) to exchange their experiences in training management, training program and curriculum. The Japanese side stated that they could convey it to JICA Headquarters.

(4) Joint Committee Meeting

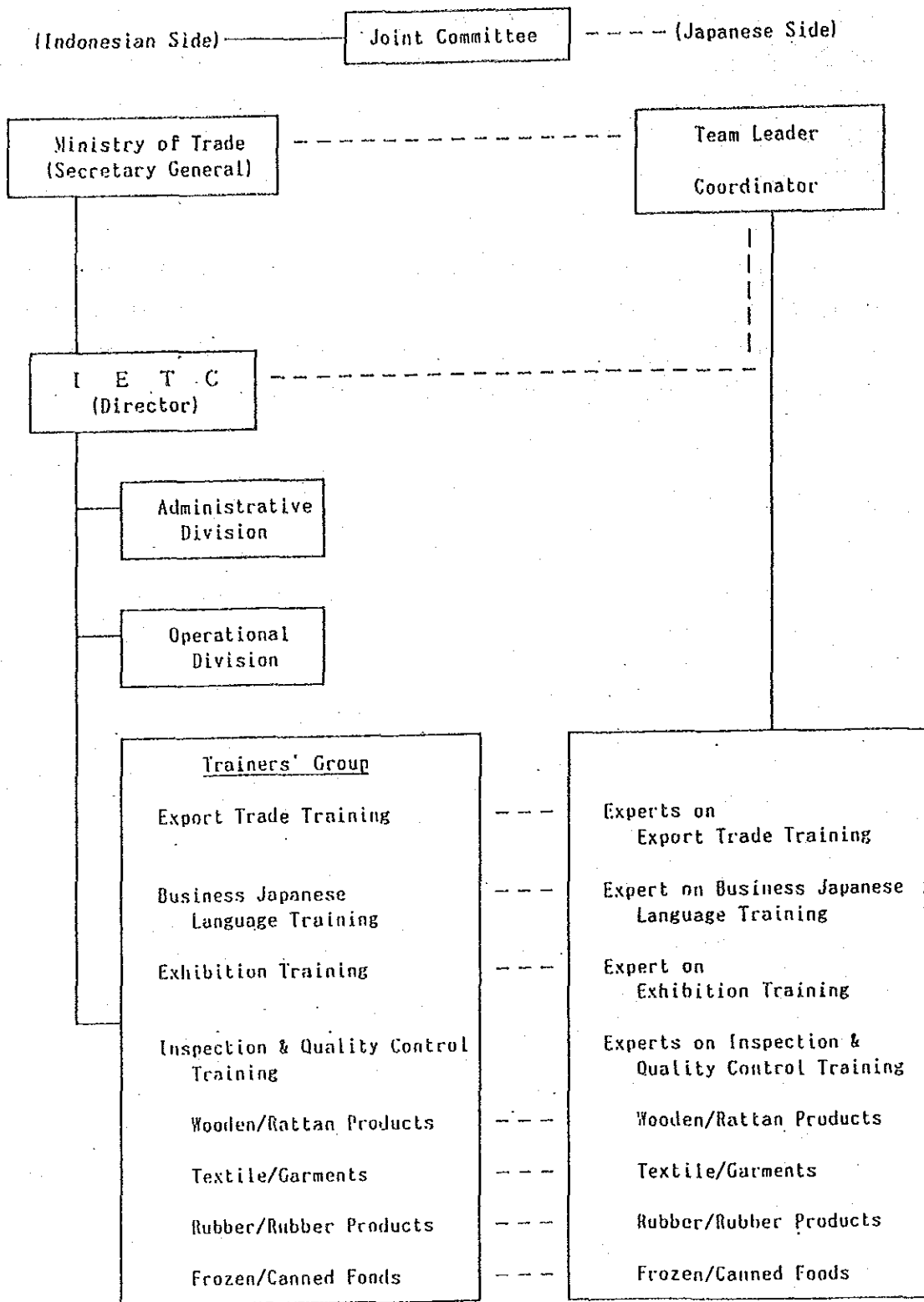
The Third Joint Committee Meeting for the Project was held at the conference room of IETC on October 25, 1991. The results of the discussion are described in this document. The attendants of the meeting are shown in ANNEX X.

W3

ho.

ANNEX I

ORGANIZATION CHART OF THE PROJECT



(B)

ko.

## ANNEX II

SUBJECT FOR INDONESIA EXPORT TRAINING CENTRE (IETC)

October 23th. 1991

I t e m s	1989/90		1990/91		1991/92		1992/93	
	Budget	Expenditure	Budget	Expenditure	Budget	Expenditure	Request	Assessment
	000 Rp	000 Rp	000 Rp	000 Rp	000 Rp	000 Rp	000 Rp	000 Rp
1. Project Adminis- tration	246.201	155.052	80.295	75.455	59.202	23.681	110.555	
2. Training Activities	48.368	37.141	306.327	303.610	305.546	149.718	955.358	
3. Facilities Development	21.250	19.160	288.418	287.779	335.252	195.443	484.077	
Total	315.819	221.354	675.040	666.844	700.000	368.842	1.550.000	

## ANNEX III

NUMBER OF COUNTERPARTS / TRAINERS  
as of October 1991 (Actual)

No.	FUNCTIONAL GROUP	N A M E	REQUEST	SUPPLY	SHORTAGE
I.	TRADE TRAINING	1. ICW. Pranono 2. Handaya Retno 3. Bambang Mulyatno 4. Utari Kurnianingsih 5. Achbad Achmad (Proposed) 6. Widayat (Proposed)	8	6	2
II.	EXHIBITION MANAGEMENT TRAINING	1. Nendy Naswir 2. Saor M. Tambunan	5	2	3
III.	INSPECTION AND QUALITY CONTROL TRAINING	1. Hadi Santosa 2. Hardjono	4	2	2
	1. WOODEN FURNITURE	1. Mus Mizulia Ishak 2. Huzeifin Patunrangi	4	2	2
	2. TEXTILE & GARMENT	1. Januar 2. S.E. Nainggolan 3. Ery Novrizal Yunas (Cadre)	4	3	1
	3. RUBBER AND RUBBER PRODUCTS	1. Husnainie Hasan Hanafi (Cadre) 2. Merry Maryati (Cadre) 3. Wawan Sudarmawan (Proposed) 4. Ibtewardi	4	4	-
	4. FROZEN FOOD AND CANNED FOOD	1. Julia G. Silalahi 2. Istiati Hendrawani 3. Sutyaningsih (Proposed)	3	3	-
IV.	BUSINESS JAPANESE LANGUAGE TRAINING				
T O T A L			32	22	10

JAKARTA, OCT 1991

*Lo.*

## ANNEX IV

## DESPATCH OF LONG AND SHORT-TERM JAPANESE EXPERTS

October 23rd, 1991

Fields	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94				
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	10	
1. Long-term Experts																				
(1) Leader					(Takeshi YAMAMOTO)															
(2) Coordinator					(Ryuna HIRAYAMA)															
(3) Trade Training					(Norihiro KURIHARA)															
(4) Trade Training					(Keizo AOKI)															
(5) Business Japanese Language Training					(Toshiko HONDA)															
(6) Exhibition Training (Leader)					(Takeshi YAMAMOTO)															
(7) Inspection & Quality Control Training																				
① Wooden/Rattan Products					(Yoshinaga SANO)															
② Textile/Carpets					(Takanishu FURUKA)															
③ Rubber/Rubber Products					(Keisuke YAMAMOTO)															
④ Frozen/Canned Foods																				
Total :-		5			8			7												
2. Short-term Experts																				
(1) Trade Training								(Y. IMASHITA)												
(2) Business Japanese Language Training...																				
(3) Exhibition Training																				
(4) Inspection & Quality Control Training																				
① Wooden/Rattan Products																				
② Textile/Carpets																				
③ Rubber/Rubber Products																				
④ Frozen/Canned Foods																				
Total :-		0			0			4												6

B

600

ANNEX V

COUNTERPART PERSONNEL TRAINING IN JAPAN

October 23rd, 1991

Fields and Names	1988/89					1989/90					1990/91					1991/92					1992/93					1993/94																								
	8	10	12	2	4	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10											
1. Administrative Training (1) Mr. Uiy Sadjijono (2) Mr. Djofri Ieris (3) Mr. Nurdin Nour (4) Mr. Arifel Foadhi																																																		
2. Trade Training (1) Dr. Rochlis Syahmiah (2) Ms. Hendeysa Retno (3) Ms. Retno Kusumo Astuti (4) Dr. Rochamad Andreas Anugerah (5) Dr. Bambang Mukatino (6) Mr. Utari Kartaninggih																																																		
3. Business Japanese Language Training (1) Ms. Isjaji Hendrossani (2) Ms. Julia G. Silalahi																																																		
4. Exhibition Training (1) Mr. Seor M. Sanbuan (2) Ms. Nurlaili																																																		
5. Inspection & Quality Control Training (1) Wooden/Rattan Products Mr. Harjono (2) Textile/Garments ① Mr. Huzairin Patunransi ② Mr. Huzairin Patunransi ③ Ms. Siti Nurulie Ishak (3) Rubber/Rubber Products ① Mr. Januar (4) Frozen/Canned Foods ① Ms. Husnainie Hasnah Hanafi ② Ms.ERRY Suryati																																																		
Total :	3					6					4					8					7																													




40.



ANNEX VI

TENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM

- ANNEX VI-1 Trade Training
- ANNEX VI-2 Business Japanese Language Training
- ANNEX VI-3 Exhibition Training
- ANNEX VI-4 Wooden furniture and Rattan Products
- ANNEX VI-5 Textile and Garment
- ANNEX VI-6 Rubber and Rubber Products
- ANNEX VI-7 Frozen and Canned Foods

- 1) already implemented      .thick line      
- 2) will be implemented      double line      
- 3) follow up      thin line      



ko.

SENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM

ANNEX VI - 1

(Trade Training)

Revised on October 28, 1991

D E S C R I P T I O N	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94						
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	
(Basic)																						
1. Training Courses Program																						
1. Collection of Data & Information																						
2. Market Research																						
3. Curriculum Establishment																						
4. Textbooks Preparation																						
2. Technology Transfer Program (note)																						
1. Editor/writer of Teaching Materials																						
2. Seminar Organiser																						
3. Lecturer																						
4. Moderator																						
5. Information Analyst																						
(Advanced)																						
1. Training Courses Program (note)																						
1. Development of Training Materials																						
2. Technology Transfer Program (Note)																						
1) Editor/writer of Teaching Materials																						
2) Seminar Organiser																						
3) Lecturer																						
4) Moderator																						
5) Information Analyst																						
(Management)																						
1. Training Courses Program																						
2. Technology Transfer																						

ANNEX VI-2

TENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM  
(Business Japanese Language)

Revised on Oct. 28, 1991

DESCRIPTION	1988			1989/1990			1990/1991			1991/1992			1992/1993			1993			
	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10
1 JAPANESE EDUCATION 1) PRONUNCIATION 2) GRAMMAR 3) VOCABULARY 4) WRITING 5) READING																			
2 TECHNICAL TEACHING METHOD  *BASIC COURSE 1) PRONUNCIATION 2) JAPANESE LETTERS 3) VOCABULARY 4) GRAMMAR 5) CONVERSATION 6) SPEECH  *INTERMEDIATE COURSE 1)KANJI LETTERS 2)VOCABULARY 3)GRAMMAR 4)COMPOSITION 5)READING  *ADVANCED COURSE 1)KANJI LETTERS 2)VOCABULARY 3)READING																			
3 PRODUCTION OF TEACHING MATERIALS 1 TEXT BOOK 2 DRILL BOOK 3 TEST PAPER 4 HOME WORK PAPER 5 LISTENING TAPE 6 PICTURE & LETTERS CARD																			
4 WORD PROCESSOR																			

16.

ANNEX VI-3

INITIATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM (Exhibition Trainings)

Revised on October 28, 1991

Description	1988/89			1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94					
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	
1. Basic Course																					
1) Collection of Information	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) Revise of Curriculum	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) Improvement of Material	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) Trade Fairs	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) Participation	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
6) Role of Trade Fair	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
7) Selection of Trade Fair	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
8) Booth in Pavillon	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
9) Inquiry	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
10) Follow Up	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2. Advanced Course																					
1) Selection of Trade Fair	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) Reservation of Booth	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) Design of Booth	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) Inviting Participants	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) Transportation of Exhibits	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
6) Construction of Booth	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
7) Advertisement & P.R.	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
8) Evaluation	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
9) Practice of Display	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
10) Case Study	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3. Technical Trainings																					
1) Collection of Information	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) Curriculum Preparation	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) Draft in English	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) Revise	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) Training Material	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4. Technical Trainings																					
1) Collection of Information	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2) Curriculum Preparation	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3) Draft in English	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
4) Revise	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
5) Training Material	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....

Leo.

(13)

ANNEX VI - 4

TENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM  
(Inspection and Quality Control of Wooden Furniture, Rattan Products) Revised on Oct 28 1991

Description	1990			1991			1992			1993					
	S	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12
1) Maintenance & adjustment of testing equipment															
2) Operation training & application of testing method															
3) Inspection & testing for Furniture															
1. Testing method of furniture materials (Wooden, Rattan)															
2. Testing strength of joints for furniture															
3. Strength characteristic of Glue															
4. Testing method of paints and lacquers															
5. Testing of finished products furniture															
6. Testing method of packaging materials															
4) Quality Control techniques and process control															
5) Technology transfer for Counterparts & Operators															
6) Technical guidance of counterparts															
7) Improvement of teaching materials & adjustments															

10

ANNEX VI-5

TENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM  
(Inspection and Quality Control of Textile & Garment)

Revised on October 28, 1981

Description	'89 FY				'90 FY				'91 FY				'92 FY				'93 FY											
	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	
1. Labo. setting up	_____																											
2. Testing methods 1) Fiber identification Fiber mixture ratio 2) Color fastness test 3) Judgement on 2) 4) Test for fabrics 5) Test for package 6) Safety	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> </div>																											
3. Inspection methods 1) Fabric inspection 2) Garment inspection	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> </div>																											
4. Q.C. technique 1) Q.C. technique and standards for yarn, fabric, garment 2) Statistical method and sampling inspection	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> </div>																											
5. Preparation for course (Advice for curriculum, text)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> <div style="width: 20%;">_____</div> </div>																											

(17)

10.



ANNEX VI-7

TENTATIVE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM

( Inspection and Quality Control of Frozen / Canned Foods )

( Revised on October 23, 1991 ) ( 1 )

Description	1989/90				1990/91				1991/92				1992/93				1993/94			
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10
1. Fundamental Studies on Food )																				
1. General Requisite for food																				
1) Relation between health and food																				
2) General composition of food																				
3) Characteristic composition of food																				
4) Relation between food and culture																				
5) Trend of food consumption																				
2. Element of Food Quality and Food Preservation																				
1) Elements concern with food quality																				
2) Causes of deterioration and condition of surroundings																				
3) Causes of deterioration, and technology of preservation																				
3. Food Sanitation and Hygiene																				
1) Species and characteristics on microorganism																				
2) Bacteria toxication																				
3) Spontaneous toxication																				
4) Chemical toxication																				
5) food additives																				
4. Frozen Food																				
1) Definition on frozen food																				

WA

100



Description	1990/91				1991/92				1992/93				1993/94							
	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10
2) Characteristics of frozen food																				
3) Deterioration during cold storage																				
5. Canned Food																				
1) Assortment, container and manufacturing process																				
2) Characteristics																				
3) Denaturation and deterioration																				
6. Water for Use																				
1) Treatment follow the purpose																				
2) Water standard																				
7. Regulation by the Lpr in Japan																				
8. International Food Standard																				
( Method of Inspection and Testing )																				
1. Selection of the Method and the Technique																				
1) Extraction of typical sample																				
2) Adopt the sensitive method and confirmation the result																				
2. Testing Method on Bacteria																				

100.



Description	1990/91		1991/92		1992/93		1993/94	
	3	10	12	2	4	5	8	10
1) Adjustment the laboratory environment and tools 2) Testing method about each bacteria group and strain								
3. Testing Method on Chemical Components 1) Adjustment the laboratory environment and tools 2) Testing method about each components								
4. Testing Method on Sensory Test 1) Management of panelist and adjustment the laboratory environment 2) Selection of the technical method 3) Analysis on the data								
5. Testing Method on Specified Commodity 1) Testing method of Japanese export standard, Frozen Food 2) Testing method of Japanese export standard, Canned and Bottled Food								
6. Basic Studies on Total Quality Control 1) Conclusion from production to consumption 2) Quality control on the stage of production 3) Quality control on the stage of distribution 4) Clarify to the purpose of TQC								

ko.

PA

(4)

Description	1989/90			1990/91			1991/92			1992/93			1993/94						
	9	10	12	4	6	9	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	5	8	10
1: Establishment of checking system and improving system 5: TQC and guarantee 2. Basic Technique on TQC 3. Testing System and Feedback System																			

60.

147

Narrative Summary	Degree of Achievement	Means of Verification	Important Assumption
<u>Development Goal</u> Human resources development in the field of export promotion.	<u>Means of Goal Achievement</u> Situation of securing human resources in the field of export promotion.	Results of evaluation by the Ministry of Trade.	<u>For Achieving Goal</u> Appropriate support to and implementation of the Project by the Indonesian side.
<u>Purpose of the Project</u> Support of the activities of IETC by means of providing advice and guidance to the counterpart personnel of IETC from the Japanese experts.	<u>Condition that will indicate the purpose has been achieved</u> Improvement of the activities at IETC.	Results of discussion at the Joint Committee Meeting.	<u>For Achieving Purpose</u> Appropriate support and cooperation by the Indonesian and Japanese sides.
<u>Outputs</u> Technology transfer in the field of: 1) Export Trade Training 2) Business Japanese Language Training 3) Exhibition Training 4) Inspection and Quality Control Training ① Wooden Furniture and Rattan Products ② Textile and Garment ③ Rubber and Rubber Products ④ Frozen and Canned Foods	<u>Magnitude of Outputs</u> Degree of progress of Technical Cooperation Program evaluated by discussion between the Japanese experts and the Indonesian counterparts.	Results of discussion at the Joint Committee Meeting.	<u>For achieving Outputs</u> Appropriate implementation of the articles of the R/D by the both sides.
<u>Inputs</u> 1) Dispatch of experts. 2) Training of counterpart personnel in Japan. 3) Provision of machinery and equipment.	<u>Implementation target</u> As shown in the R/D and ISI.	Results of discussion at the Joint Committee Meeting.	<u>For Achieving Inputs</u> Appropriate implementation of the articles of the R/D by the both sides.

Note : This logical framework would be amended in accordance with the progress of the Project.

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

PHASE	PREPARATION (PHASE I)		IMPLEMENTATION (PHASE II)		SELF-RELIANCE (PHASE III)	
	1988	1989	1990	1991	1992	1993
CALENDAR YEAR	1988	1989	1990	1991	1992	1993
JAPANESE FISCAL YEAR	1988	1989	1990	1991	1992	1993
<b>TECHNICAL COOPERATION (R/D)</b>	<hr/>					
<b>A. Indonesian Side</b>	<hr/>					
1. Construction of IETC	<hr/>					
2. Staff Recruitment	<hr/>					
3. Operation of IETC	<hr/>					
<b>B. Japanese Side</b>	R/D	Consultation	do	do	Evaluation	
1. Dispatch of Survey Team	<hr/>					
2. Dispatch of Japanese Experts	<hr/>					
(Long-term Experts)	<hr/>					
(1) Team Leader	<hr/>					
(2) Coordinator	<hr/>					
(3) Trade Training	<hr/>					
(4) Business Japanese Language Training	<hr/>					
(5) Inspection and Quality Control Training	<hr/>					
1) Wooden/Rattan Products	<hr/>					
2) Textile/Garment	<hr/>					
3) Rubber/Rubber Products	<hr/>					
4) Frozen/Canned Foods	<hr/>					
(Short-term Experts)	<hr/>					
(1) Trade Training	<hr/>					
(2) Inspection and Quality Control Training	<hr/>					
1) Industrial Products	<hr/>					
2) Agricultural Products	<hr/>					
(3) Exhibition Training	<hr/>					
3. Training of Indonesian Counterpart Personnel in Japan	<hr/>					
(1) Trade Training	<hr/>					
(2) Business Japanese Language Training	<hr/>					
(3) Inspection and Quality Control Training	<hr/>					
1) Industrial Products	<hr/>					
2) Agricultural Products	<hr/>					
(4) Exhibition Training	<hr/>					
4. Provision of Equipment and Machinery	<hr/>					

NOTE : This schedule is subject to change on condition that necessary budget will be acquired for the implementation of the Project. The thin line shows original plan, the thick line shows already implemented, and the broken line shows will be implemented.

*(Handwritten mark)*

ANNEX IX

TENTATIVE TRAINING SCHEDULE IN 91/92 FY

October 28, 1991

Training Courses	89/90	90/91	1991/92 FY												Remarks			
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1. TRADE TRAINING																		
(1) General Training	3 (80)	8 (263)		11			00 17		10									8 courses
(2) Productwise Training	0 (0)	4 (88)				17												2 courses
(3) Countrywise Training	0 (0)	0 (00)		16			30		22									2 courses (28)
(4) Technical Training	0 (0)	0 (0)																3 courses
(5) Technical Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																4 courses
(6) Seminar (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																9 times
2. BUSINESS JAPANESE LANGUAGE TRAINING																		
(1) Basic Course (Level 1)	1 (18)	2 (35)		10				12										3 courses
(2) Basic Course (Level 2)	0 (0)	1 (8)							2									1 course
(3) Basic Course (Level 3)	0 (0)	0 (0)																1 course
3. EXHIBITION TRAINING																		
(1) Basic Course	2 (34)	6 (79)		10			17	14										4 courses
(2) Advanced Course	0 (0)	2 (27)																2 courses
(3) Technical Training	0 (0)	0 (0)		16				22										2 courses
(4) Technical Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																2 courses
4. INSPECTION & QUALITY CONTROL TRAINING																		
(1) Wooden/Rattan Products																		
① Wooden Products Course	0 (0)	4 (52)					4											3 courses
② Rattan Products Course	0 (0)	0 (0)																1 course
③ Technical Training	0 (0)	0 (0)																2 courses
④ Tech 'I' Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																2 courses
(2) Textile/Garments																		
① Textile Course	1 (13)	3 (34)		13														3 courses
② Garments Course	0 (0)	1 (15)																1 course
③ Technical Training	0 (0)	0 (0)																1 course
④ Tech 'I' Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																2 courses
(3) Rubber/Rubber Products																		
① Raw Rubber Course	1 (13)	4 (48)																2 courses
② Rubber Products Course	0 (0)	0 (0)																1 course
③ Technical Training	0 (0)	0 (0)																1 course
④ Tech 'I' Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																2 courses
(4) Frozen/Canned Foods																		
① Frozen Food Course	0 (0)	4 (39)																2 courses
② Canned Food Course	0 (0)	0 (0)																1 course
③ Technical Training	0 (0)	0 (0)																1 course
④ Tech 'I' Training (Self-finance)	0 (0)	0 (0)																1 course
Total Number of Trainees & Participants	8 (156)	39 (830)	0	110	48	110	130	50										(56)

(15)

40.

## 1. INDONESIAN SIDE

## (1) Ministry of Trade

Mr. Mohammad Effendi	Head, Bureau of Public Relations and Foreign Technical Cooperation
Mr. Akinaga Sinaga	National Agency for Export Development
Ms. Nunuk Hidayani	Center for Testing and Quality Control

## (2) Indonesia Export Training Center (IETC)

Mr. Soewardi Soepadi	Acting director of IETC
Mr. M. Djufri Idris	Head, Administrative Division
Mr. Nurdin Noor	Head, Operational Division
Ms. Hidayati Retno	Counterpart for Trade Training
Ms. Utari Kurnianingsih	Counterpart for Trade Training
Ms. Nendy Naswir	Coordinator for Exhibition Training
Mr. Januar	Coordinator for Rubber and Rubber Products Training
Mr. Hardjono	Counterpart for Wooden Furniture and Rattan Products Training
Ms. Nuz Nuzulia Ishak	Coordinator for Textile and Garment Training
Ms. Husnainie Hasan Hanafi	Coordinator for Frozen and Canned Foods Training
Ms. Julia G. Silalahi	Coordinator for Business Japanese Language Training




## 2. JAPANESE SIDE

### (1) JICA Technical Guidance Team

Dr. Kenji Tomita	Leader
Mr. Yasuhiko Yoshida	Technical Cooperation Planning
Mr. Kazumi Sagisaka	Inspection and Quality Control
Mr. Shigenobu Ikedo	Inspection and Quality Control
Mr. Teruhiko Kawabata	Coordinator

### (2) JICA Advisory Team

Mr. Takashi Yamamoto	Team Leader and Expert for Exhibition Training
Mr. Ryuma Hirayama	Coordinator
Mr. Norihiro Kurihara	Expert for Trade Training
Mr. Daisuke Oya	Expert for Business Japanese Language Training
Mr. Sakazo Takeuchi	Expert for Wooden and Rattan Products
Mr. Tsuneo Hashimura	Expert for Textile and Garment
Mr. Keisuke Yamamoto	Expert for Rubber and Rubber Products
Mr. Ryo Kikuchi	Expert for Frozen and Canned Foods

### (3) Embassy of Japan

Mr. Takashi Honjo	First Secretary
-------------------	-----------------

### (4) JICA Indonesia Office

Mr. Noboru Taneda	Assistant Resident Representative
-------------------	-----------------------------------



ko.









JICA